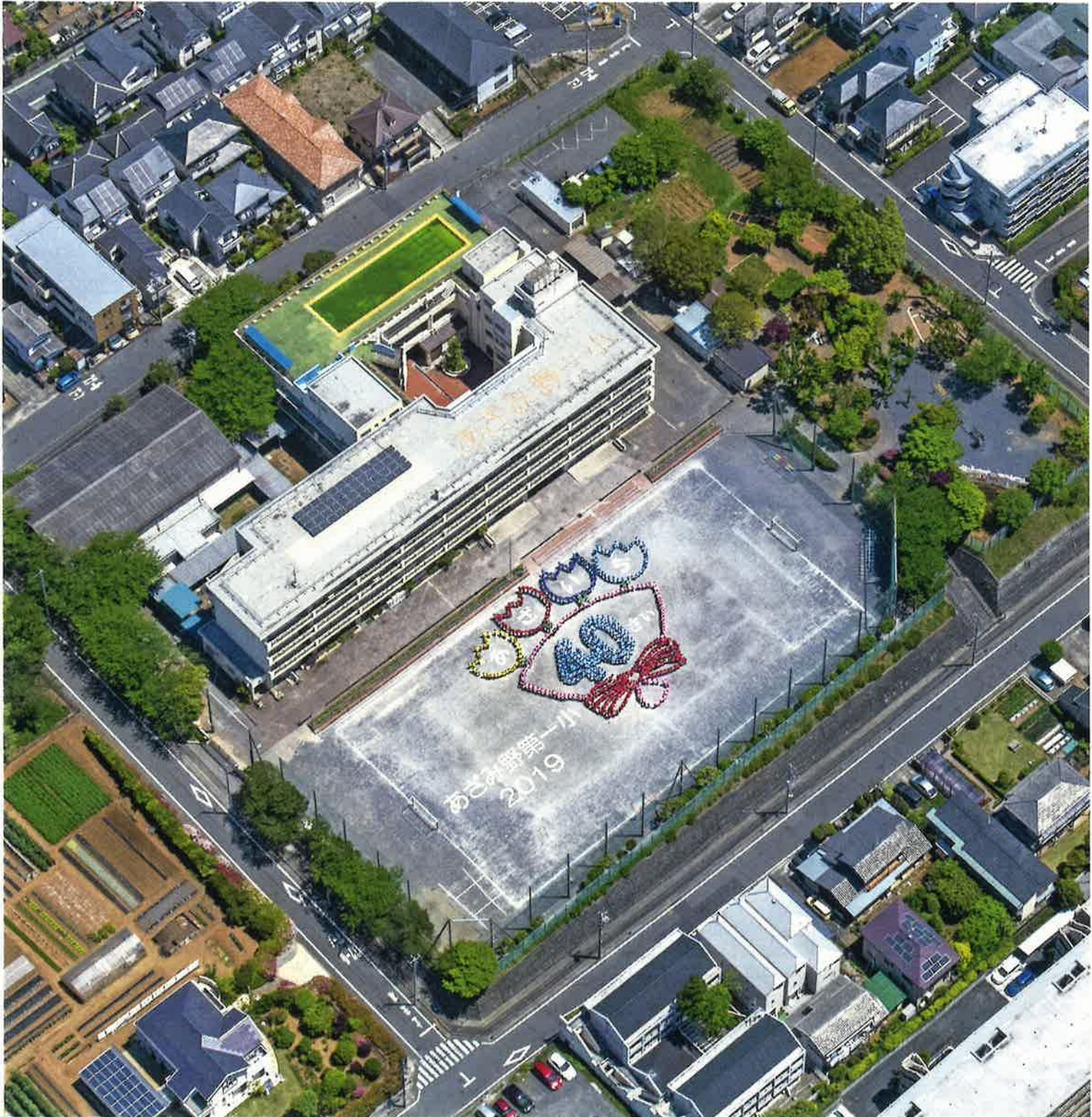




# あざみ野の うつりかわり



横浜市立 あざみ野第一小学校



# は し が き

学校長 藤馬 直子

今年、あざみ野第一小学校は創立40周年を迎えます。同時に、青葉区は区制発足25周年を迎えます。この25年間に、学校もまちの様子も大きく変わってきました。そこで、その変化を記録に残し、学習に役立たせたいと考え、資料集を改訂することにしました。

あざみ野第一小学校が15周年を迎えたときと、25周年を迎えたときに、3年生の子どもたちを対象に、学校のことやあざみ野のまちのことを学習するための資料として、その頃の先生や保護者の皆さんが協力して作ってくださった資料集があります。これらの資料集は、学校の移り変わりやあざみ野のまちの移り変わりについて、とても分かりやすく書かれていて、楽しく読み進めることができるように工夫されています。また、資料も豊富に掲載されているので、3年生の社会科の学習に大変役立ってきました。しかし、15年の時が過ぎて、資料集の内容やデータが最近のものと変わってきてしまいました。そこで、これらの資料集の良さを生かしつつ、さらに使いやすいものを目指して作り直しました。

先生方が工夫して作ったこの新しい資料集を、全学年の皆さんが、生活科や総合的な学習の時間、社会科などの学習をするときに、是非、資料として活用してください。そして、このあざみ野のまちを「ふるさと」として愛し、大切にしたいと願っています。

最後になりましたが、編集するにあたって、多大なご協力をいただきました地域の皆さま、保護者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

# 目次

## 1. わたしたちの学校

1	学校平面図	6
2	学校の1年	7
3	学校たんけん	8
4	校庭たんけん	10
5	ワイワイランドたんけん	12

## 2. わたしたちのまち

1	あざみ野のまち	14
2	学校の位置	15
3	学区のとくちょう	16
4	学校のまわりの公園	20
5	商店	24
6	農業	28
7	寺と神社	32

### 3. 学校の歴史

- 1 むかしの学校 ..... 38
- 2 あざみ野第一小学校のあゆみ ..... 40
- 3 あざみ野第一小学校(資料) ..... 46
- 4 航空写真 ..... 50

### 4. あざみ野の歴史

- 1 あざみ野の昔をたどろう ..... 53
- 2 あざみ野地区のうつりかわり(年表) ..... 54
- 3 あざみ野の今と昔(資料) ..... 57

### 5. 資料

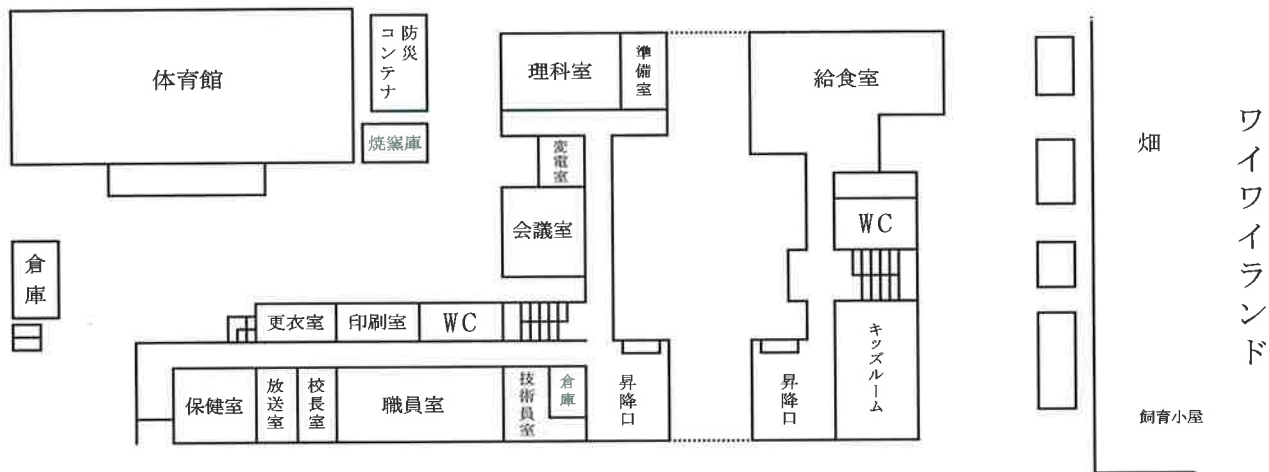
- 1 あざみ野第一小学校の周り ..... 64
- 2 生活科自然たんけんマップ ..... 66



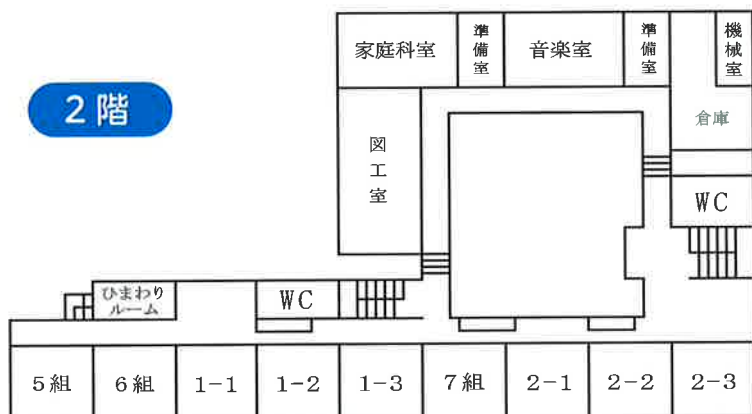


# 1. わたしたちの学校

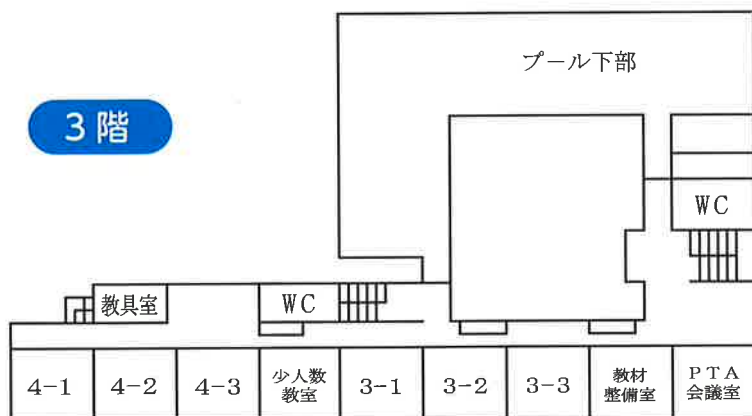
## 1階



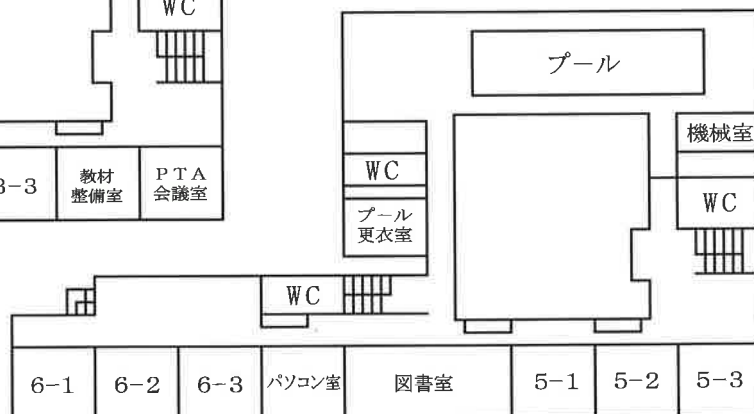
## 2階



## 3階



## 4階



## 1 学校平面図

平成30年度  
横浜市立あざみ野第一小学校



## 2 学校の1年

### ●入学して

4月には、1年生が入学してきます。2年生以上の人は、お兄さんお姉さんになるので、1年生にいろいろなことを教えてあげたり、一緒に遊んであげたりします。

### ●春の遠足・宿泊体験学習

1年生⇒嶮山公園 2年生⇒スーラシア動物園 3年生⇒こどもの国  
4年生⇒宿泊体験学習<上郷森の家> 5年生⇒宿泊体験学習<道志村>  
6年生⇒修学旅行<日光>



### ●水泳学習

6月には、水泳学習が始まります。低学年では、水のかげっこや水中で目をあけてジャンケンゲームや宝さがしなどをして、水に慣れて遊んでいます。中・高学年では、いろいろな泳ぎ方の練習をして、記録会なども開いています。

### ●運動会

運動会を行います。玉入れ、綱引き、ダンス、組体操、騎馬戦、競技や表現をしている子どもたちも楽しそうで、見ている人たちも楽しそうでした。

### ●学校を開く週間

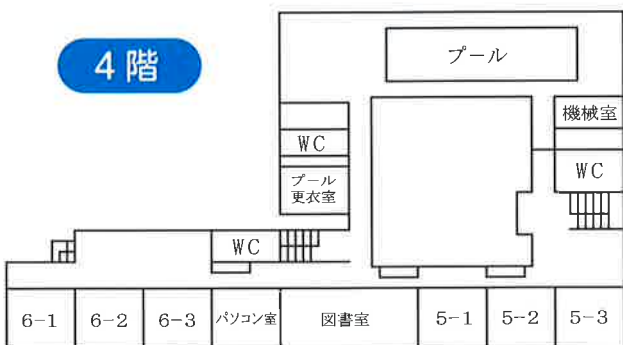
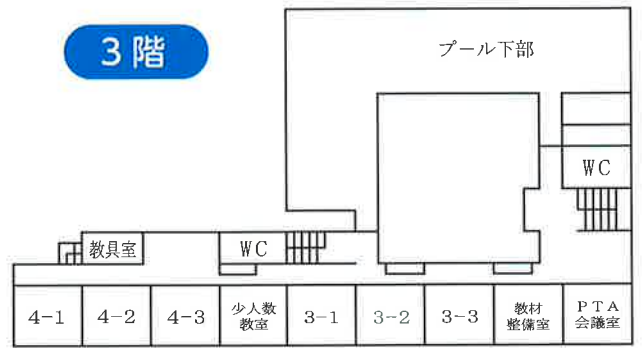
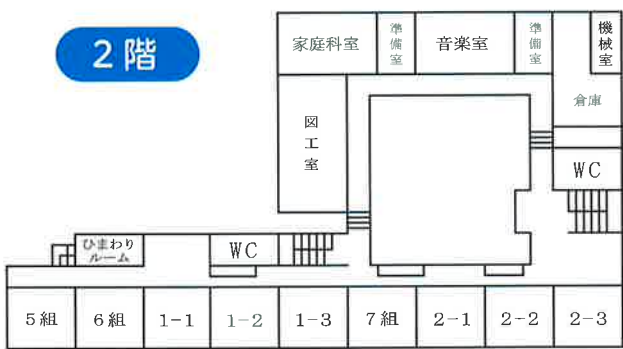
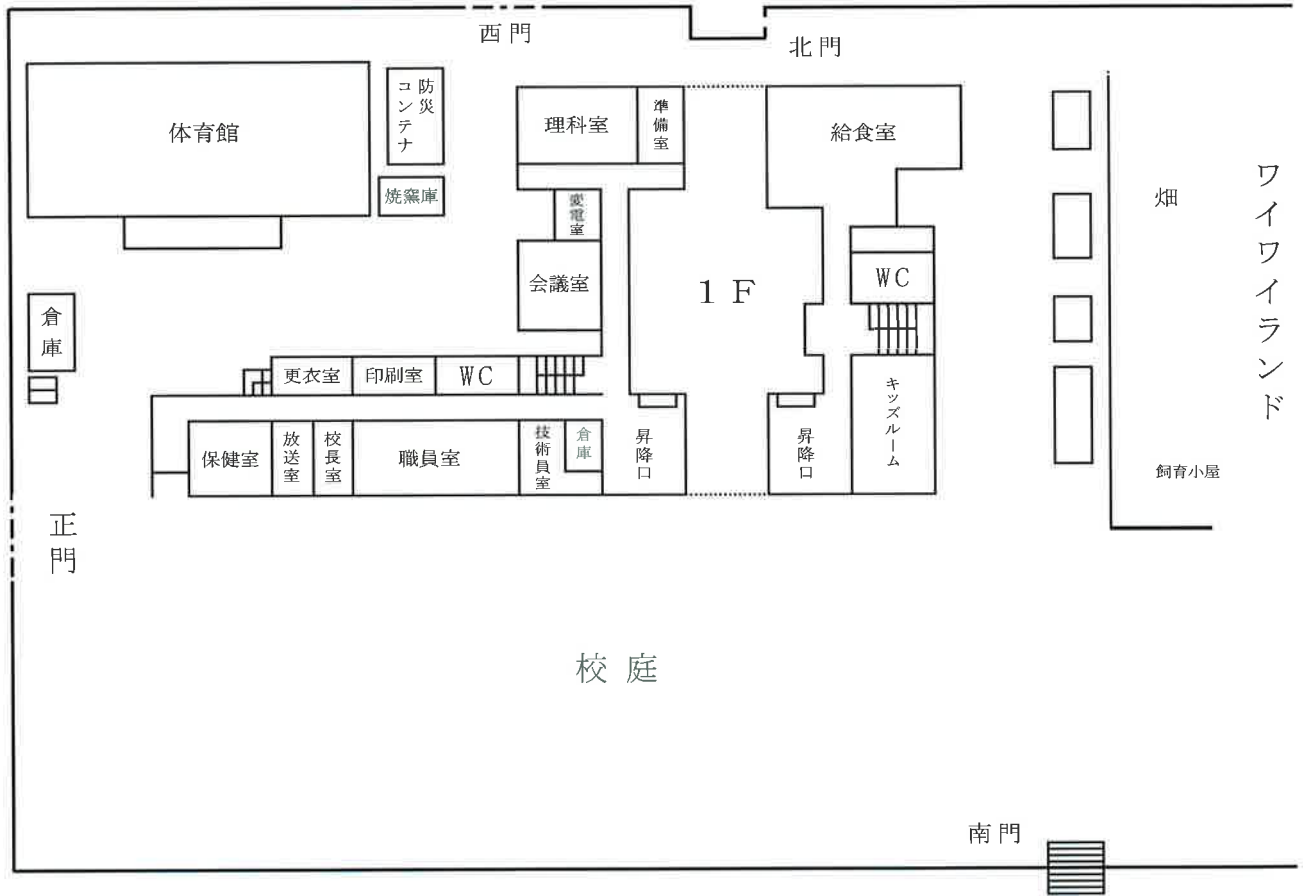
1日オープンスクールとして、朝から帰りの会までいつの間でも保護者の方や地域の方が参加できる日として1週間期日を決めて行いました。

### ●卒業証書授与式

3月に卒業式をむかえます。6年間のいろいろ思い出を胸に卒業していきました。1年生の教室を清掃してくれたり、クラブや委員会活動で下級生にいろいろと教えたりたてわり活動と一緒に遊んでもくれました。

3

がっこう 学校たんけん



- みなさんの教室は、どこにありますか。
- どんなへやが どこにあるか たんけんしましょう。

● 校長室 (ちやうじやうしつ)



● 保健室 (ほけんしつ)



● 給食室 (きよくじつしつ)



● 図書室 (としょしつ)



● 理科室 (りかしつ)



● 図工室 (ずこうしつ)



● 家庭科室 (かていかしつ)



● 音楽室 (おんがくしつ)



● 体育館 (たいいくかん)



● プール (ぷうる)



## 4 こうてい 校庭たんけん



アジサイ



サクラ



シラカシ



左：クスノキ 右：サクラ



クスノキ



タケ



イロハモミジ



マテバシイ



マテバシイ



セージ



左：クヌギ 右：コブシ



カツラ



キンモクセイ

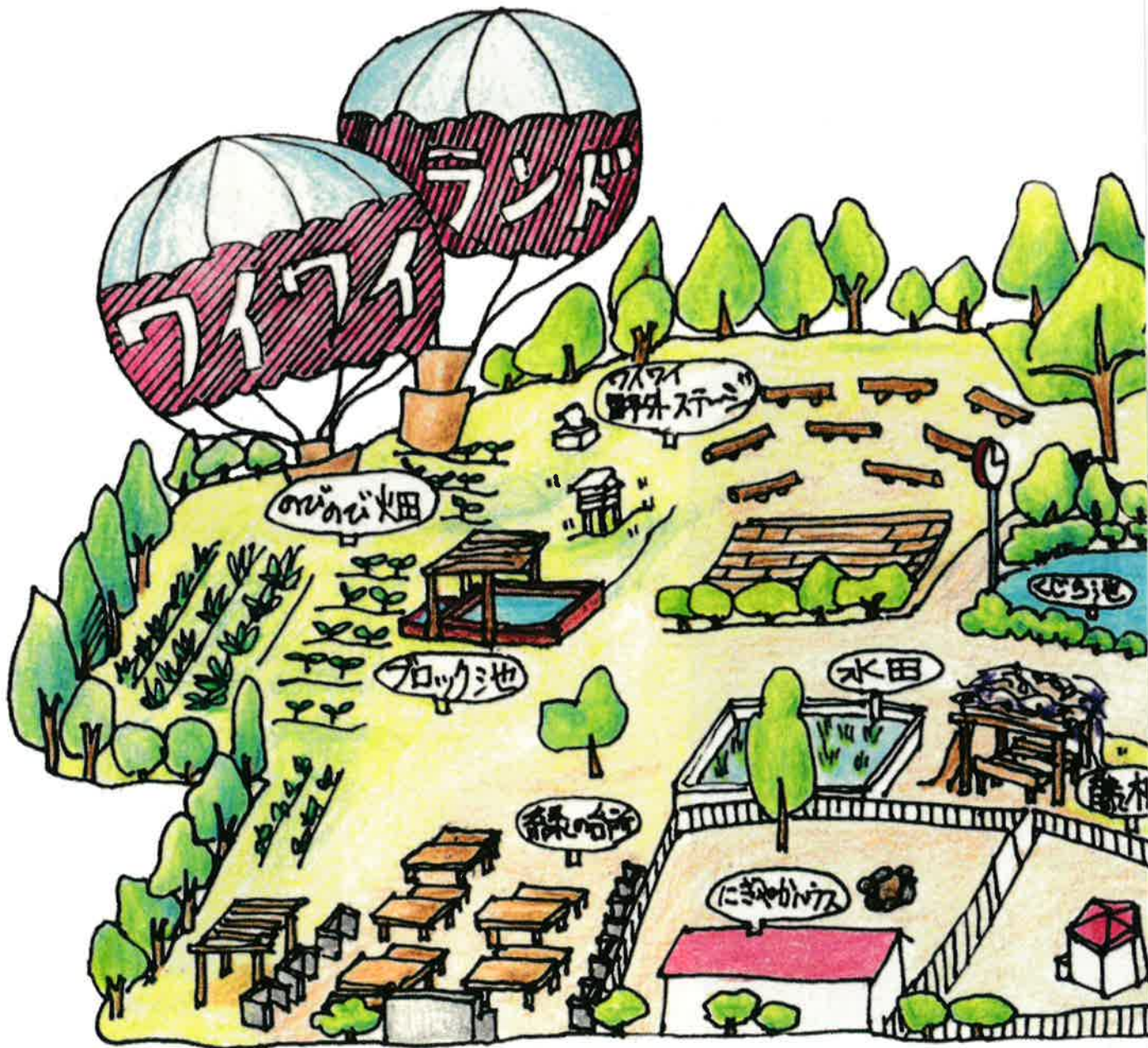


ソメイヨシノ



左：トウカエデ  
右：ドウダンツツジ

## 5 ワイワイランドたんけん



### ワイワイランドにいるいきもの



トンボ



アメンボ



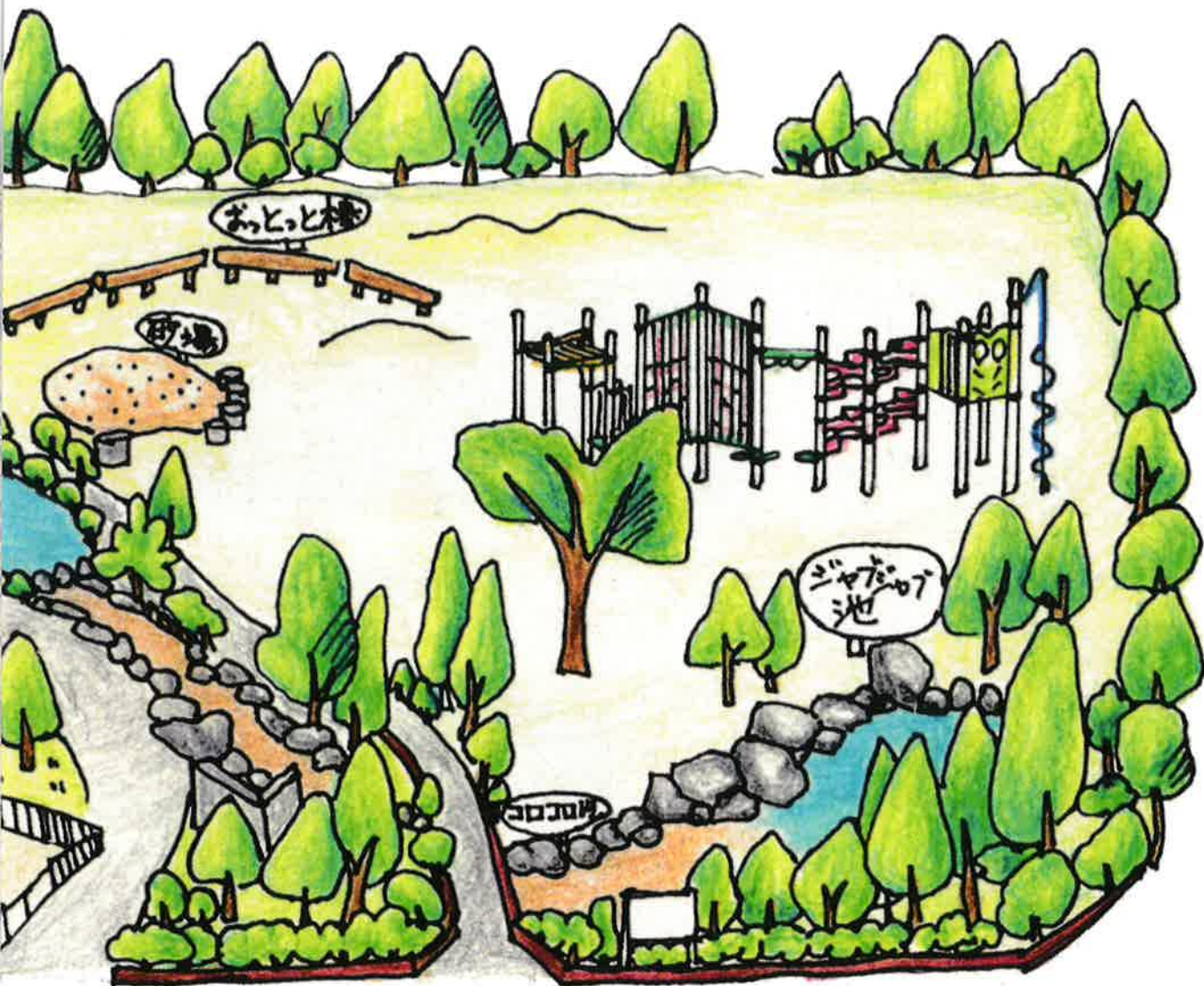
メダカ



ウサギ

ワイワイランドは子どもたちがワイワイと言いながら楽しく遊べるという  
意味から児童会が名づけました。

面積はやく4,000平方メートルあり、校庭とだいたい同じ広さです。



### 畑で育てているやさい



キャベツ



トマト



ナス



サツマイモ

## 2. わたしたちのまち

### 1 あざみ野のまち

あざみ野は青葉区の北にあり都筑区や川崎にも近いところです。あざみ野駅には東急田園都市線と横浜市営地下鉄が通り、渋谷・横浜駅方面に行くことができます。あざみ野のまちは、あざみ野駅からすすき野団地方面へ、西にのびる大きなバス通りに沿って、商店が立ち並んでいます。商店街の周りには、多くの住宅や団地・大きなマンションがあります。あざみ野駅東側には、山内地区センター・図書館があります。農地は少なくなってきた、新しい住宅やマンションが建てられています。



#### ●青葉区の地図

青葉区が誕生したときには、町は73でしたが、その後の土地区画整理により、現在では79となっています。その中に164の自治会と15の連合があります。ちなみに町名は、植物の名にちなんだ町名が多いのが特徴です。



2018年2月発行

「なるほどあおば2017 データで見る青葉区」より

#### ●青葉区の位置



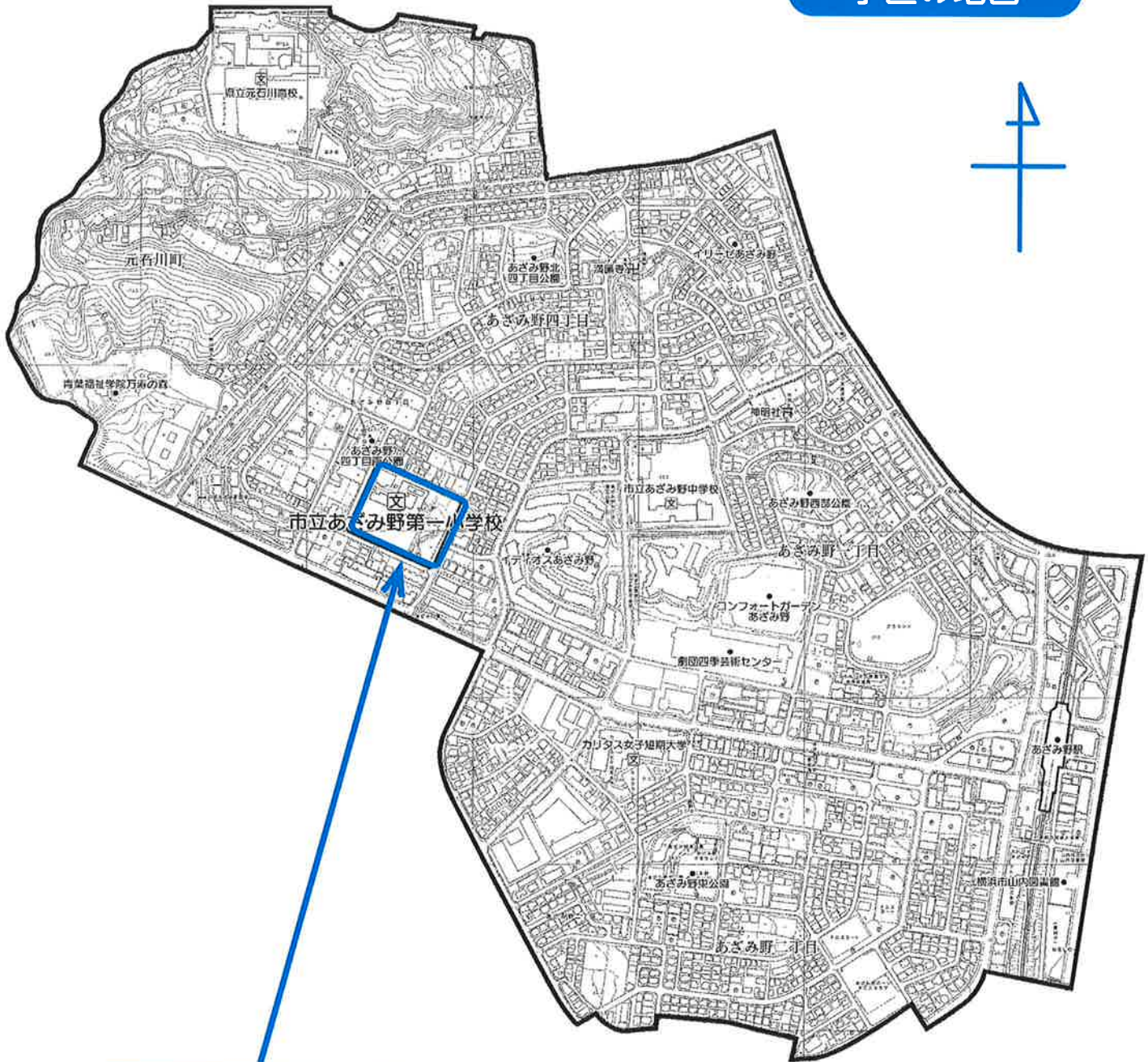
平成30年3月23日現在  
資料：横浜市統計書



## 2 学校の位置

あざみ野第一小学校は、あざみ野駅から緩やかな坂を西に約1kmのぼったところにあります。学校の東側にはあざみ野団地やあざみ野中学校があり、北側には住宅地の他に農地や神社などもあります。南側には住宅地が広がり、西側には林も見られます。

### 学区の地図



あざみ野第一小学校

### 3 学区のとくちょう

#### ① 学校のまわりのようす

学校のまわりは家がたくさん建っている住宅街です。マンションなどの大きい建物もあります。公園もあります。それでもところどころに畑があり、果実を育てている農家もあります。雑木林や竹林が残っているところもあります。横浜市の中でも住宅がとても多いまちであり、今も増えつづけています。



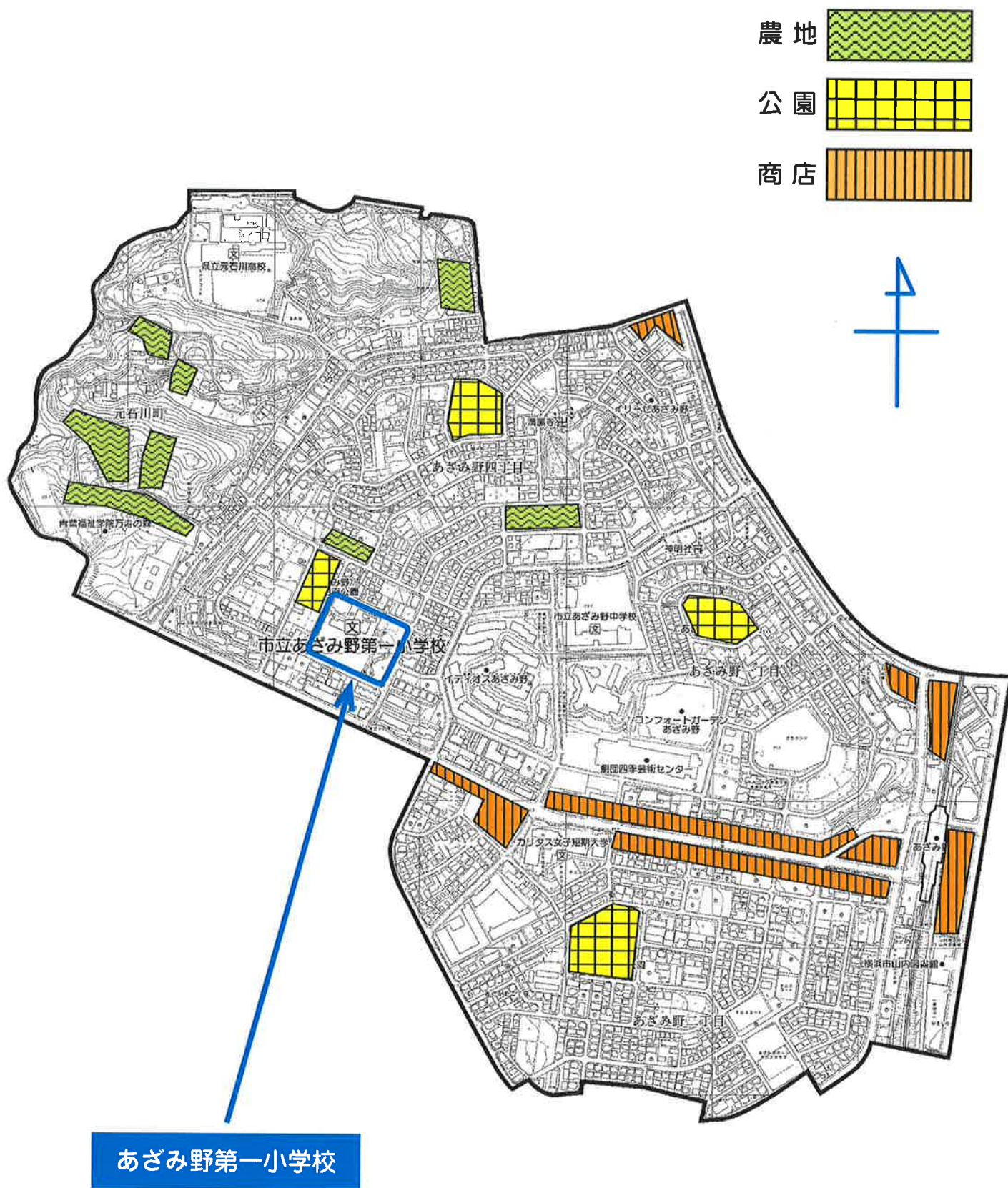
あざみ野駅  
周辺の様子



学校の東には国道246号線、東名高速道路があり、車での移動が便利です。また、バスの路線が多く電車も東急田園都市線と横浜市営地下鉄があり、交通の便がよいまちといえます。そのため通勤にも便利で、住みたいと思う人の多い人気のまちでもあります。



## ② 学区の土地利用図



### ③ 屋上からのながめ



北



西



東



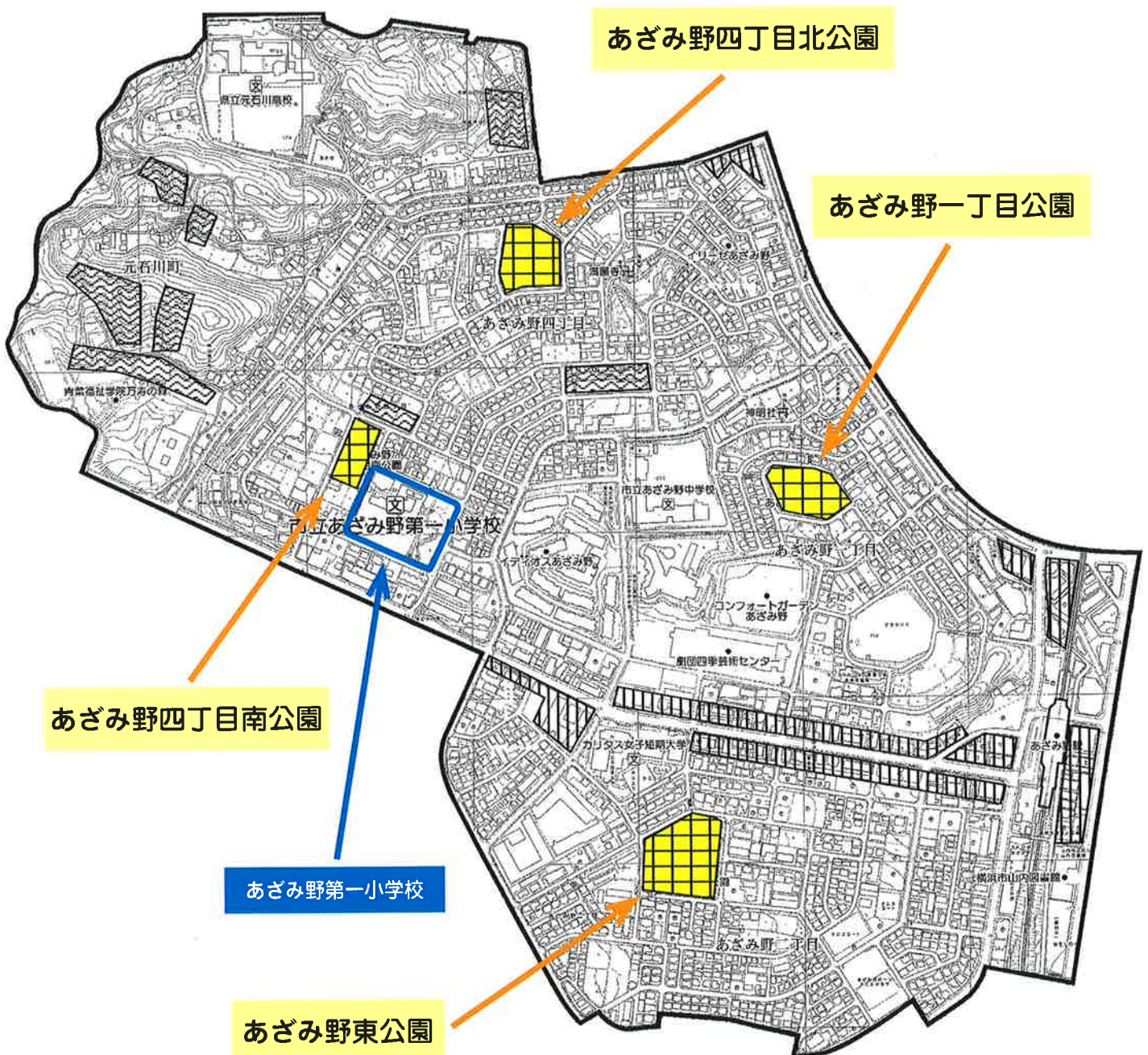
南

## 4 学校のまわりの公園

みなさんは、公園で遊んだことがありますよね。あざみ野第一小学校の学区には、公園がいくつかあります。大きな公園や小さな公園、古くからある公園もあれば、ひかたく新しくできた公園もあります。

公園には、どのような人がやってきますか。公園にはどのようなものがありましたか。また、みなさんの利用する公園が、いつも使えるように仕事している人は、だれなのでしょう。そして、公園はどのようにしてできたのでしょうか。

みなさんで、公園のことを調べてみましょう。



## ① 公園の管理について

公園を管理しているのは、西部公園緑地事務所です。公園内の樹木の<sup>せんてい</sup>剪定、<sup>じよそう</sup>除草・<sup>せいそう</sup>清掃、施設の補修など維持管理と公園愛護会の育成、野球場やテニス場などの運動施設の利用調整、西洋館や古民家、自然体験施設の運営などの運営管理を行っています。

さらに、街区公園や近隣公園などの身近な公園は、子どもたちが安心して遊べることはもちろん、地域の憩いの場やコミュニケーションの場であり、災害時の一時避難場所としても利用されます。このような地域の共通財産である身近な公園は、地元の方々に結成された「公園愛護会」の協力により、清掃、除草などが行われています。

### 「公園愛護会」の主な仕事

- ① 公園を清掃すること
- ② 遊具の管理
- ③ 砂場の砂などが足りなくなったら足す事
- ④ 公園の木を管理すること



## ① あざみ野にある公園

名前	開園年月日	面積 (㎡)
あざみ野一丁目公園	H 1 . 6 . 2 4	7, 7 0 0
あざみ野一丁目第二公園	S 6 0 . 6 . 2 5	3 0 3
あざみ野一丁目第三公園	H 1 3 . 6 . 2 5	1, 9 8 9
あざみ野三丁目公園	S 6 0 . 1 2 . 5	2, 5 5 3
あざみ野三丁目東公園	S 5 9 . 1 . 2 5	1, 5 0 9
あざみ野四丁目北公園	S 5 6 . 4 . 1	8, 7 3 5
あざみ野四丁目南公園	S 5 5 . 3 . 2 5	4, 8 8 4
あざみ野西公園	S 5 9 . 1 . 2 5	1 6, 0 1 0
あざみ野東公園	S 6 3 . 6 . 2 5	1 3, 5 2 8
あざみ野南宇多り公園	H 8 . 3 . 2 5	2, 7 3 9
あざみ野南鍛冶谷公園	H 8 . 3 . 2 5	2, 7 5 0
あざみ野南三百久保公園	H 8 . 3 . 2 5	2, 3 2 0
あざみ野南大六天公園	H 8 . 3 . 2 5	2, 7 5 0

## あざみ野四丁目南公園

回りを木々で囲まれ、学校の近くにある。子どもたちからは「もぐら公園」と呼ばれ親しまれている公園。



## あざみ野東公園

様々な種類の遊具や広いグラウンドがあり、あざみ野自治会館もある。子どもからお年寄りまで楽しめる公園。





## あざみ野 一丁目公園

木立の坂をはさんで、上に遊具広場と、長い階段の下には、グラウンドがあり「ライオン公園」とも呼ばれている公園。



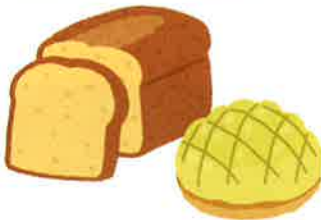
## あざみ野 四丁目北公園

上には遊具や砂場、バスケットゴールなどもあり、下にはどんぐりなどが取れる多くの木の植えられた様々な楽しみ方ができる公園。



## 5 商店

### ● もあ



「もあ」というのは、「よりおいしく」という意味で名づけられました。〇〇フェアをもうけて、お客さんにいろいろな味をとどけられるような工夫をしています。平日は350人くらい、土・日は500人くらいのお客さんが来ます。



### ● セブン・イレブン



24時間営業です。おすすめの商品はいろいろな種類のおにぎりです。お客さんがたくさん来るのは、お昼と夜の時間です。





## ● ペットフォレスト

一番売れているペットは、ハムスターです。一日にお客さんが300人くらい来ます。犬、猫、鳥、小動物、魚、昆虫などの生き物の他に、ペットに必要な物がたくさんあります。ドッグフードが一番売られています。



## ● カボス



お店ができて14年です。勝木・ブック・ストアを省略した名前が「カボス」です。16万冊の本がそろっています。朝5時頃にお店に本がとどいています。



## ● くつりゅうつうセンター



お店には1000足のくつがならんでいます。夜8時半まで開いているので、仕事帰りのお父さんなどが買いに来ます。一日にくつが50足くらい売れています。



## ● あいあいでん気



「愛」が二つで「あいあい」という名前がつけました。店員さんは4人いて、修理もしてくれます。



## 商店街のとrikumi



ほどうきょうから見たあざみ野のまち

### あざみ野商店会会長さんのお話

あざみ野商店会では、地いきとつながるお店やさんとしていろいろな取り組みをおこなっています。

7月にはあざみ野ちよい飲みフェスティバル、8月のあざみ野まつり、10月の終わりの土・日にはあざみ野ハロウィンなどのイベントをかいさいしています。また、あざみ野のまちが安全で気持ちのよいまちになるようにさまざまな活動もしています。クリーンデーという日をもうけて、年に2回まちのそうじをしてい



ます。これは、あざみ野自治会といっしょになって取り組んでいます。まちを見まわる防犯パトロールや道路を明るくする街路灯のかんり、しゅうりなどもおこないます。これらのことは、月に1回商店会の理事会をひらき、話し合いをしながら進めています。これからも、地いきの人たちとともに歩む商店会をめざしていきたいと思います。



街路灯があざみ野のまちを明るくしています。

## 6 農業

わたしたちのまち「あざみ野」は数十年前までは農業や、林業が中心の地域でしたが約45年前に開発が始まったころから宅地が増え続け、今では農業をする家のごくわずかになってきました。このような時代の流れの中でも、農業を続けてきている松本さんの「野菜作り」と吉村さんの「梨作り」を通して農業をする人の工夫や苦労について調べてみましょう。

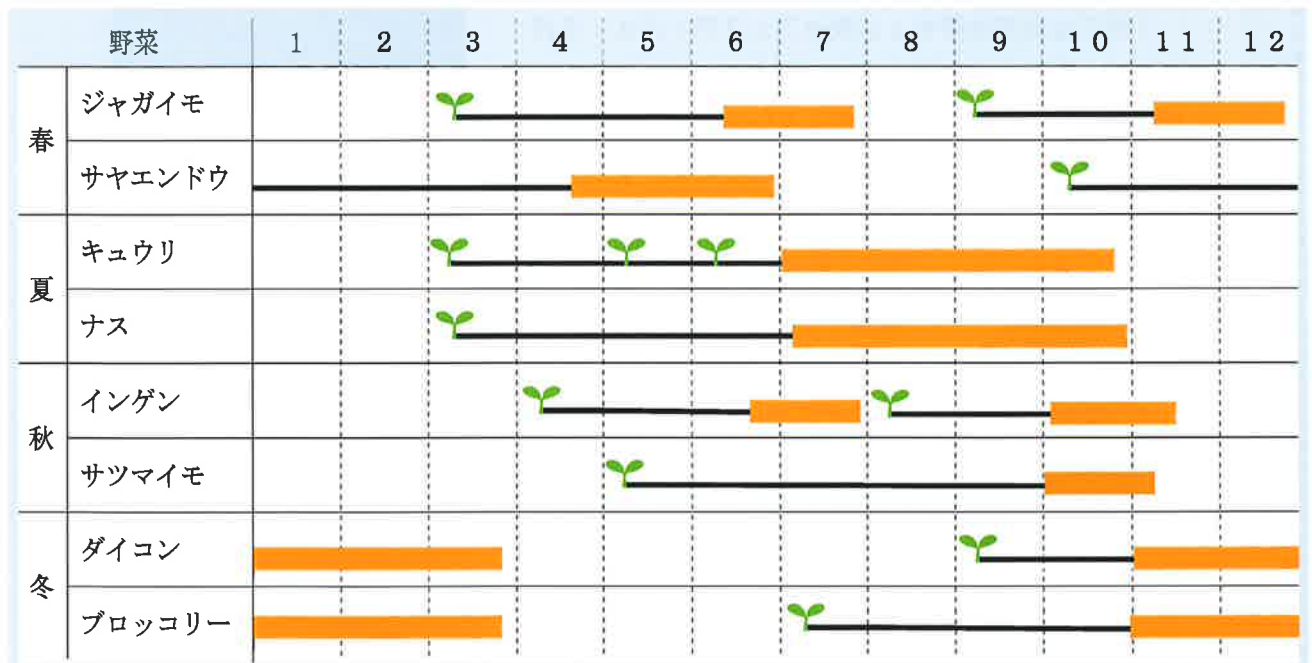
### ① 松本さんの野菜作り

松本さんの家は、小学校の正門の道路をはさんで向かいにあります。1年間を通していろいろな野菜を作り、どの時期にも野菜を収穫して、販売することができるようにしています。その種類は、30種類にもなります。

春	夏	秋	冬
タケノコ	キュウリ	サツマイモ	コマツナ
ジャガイモ	トマト	レタス	ハクサイ
サヤエンドウ	カボチャ	ナス	ホウレンソウ
スナックエンドウ	シシトウ	ピーマン	ダイコン
ソラマメ	トウモロコシ	エダマメ	ブロッコリー
グリーンピース	ショウウガ	モロヘイヤ	サトイモ
		オクラ	ナガネギ

### 栽培カレンダー

🌱 : 苗植え      🟠 : 収穫



野菜は自宅で消費者へ直接販売し(直売)、市場への出荷はしていません。夏は気温が高く、収穫できる野菜の種類も多いので、朝5時ごろから収穫の作業を始めます。午前中に、たばねたり袋に入れたりして売る準備をします。それを午後から販売します。その日にとれたものをその日のうちに、消費者の手に渡すことができます。消費者の顔を見て販売するので野菜の安全性には特に気を配っています。



土づくりには、落ち葉に米ヌカ・水を混ぜ、発酵させた自家製のたい肥を使い、肥料には、有機肥料の米ヌカ、鶏ふんを主に使用しています。良い土には、栄養がたっぷりあり、健康な野菜が育ちます。それでも、野菜は虫がついたり、病気になったりすることがあります。野菜の様子を見て1~2回消毒することもあります。できるだけ消毒の回数を少なくしています。



### 松本さんの話

数十年前までは、このあたりの大部分が畑や田んぼで住人は生きていくために農作業を行っていました。時代は変わり、社会が発展していくにつれて都会の農業は淘汰され、次々と宅地へと変化していきました。それに伴い、あざみ野周辺で農業を行っている人は、数えるほどになりました。それでもこのあざみ野という土地で農業を続けているのには、3つの理由があります。

- ① この土地のこの味を守り続けていきたいから
- ② 採れたて新鮮で、安心・安全な食品を届けたいから
- ③ 買っていただける人から直接の感想をいただき、「人に喜んでもらえる」ことの大切さを知ることで、それが人生の生きがいにつながるから

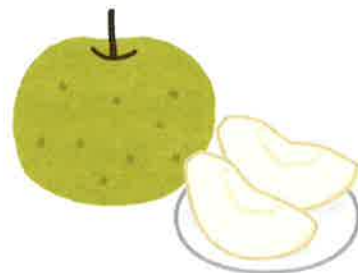
食は、人間の生命には欠かせないものです。とりわけ、将来の日本を担う子どもの健康や成長のために食材を提供する農業の仕事は欠かせないものだと考えています。その土地で採れたものを新鮮なうちに食べ、本物の「味」を知ること、子どもたちには、食への感謝の気持ちをもってほしいと願っています。代々受け継がれてきた、あざみ野の土地の野菜の味を守り続けることで、子どもたちがすくすくと大きく成長していく姿を見るのが楽しみです。これからも、地いきの人たちとともに歩む商店会をめざしていきたいと思います。



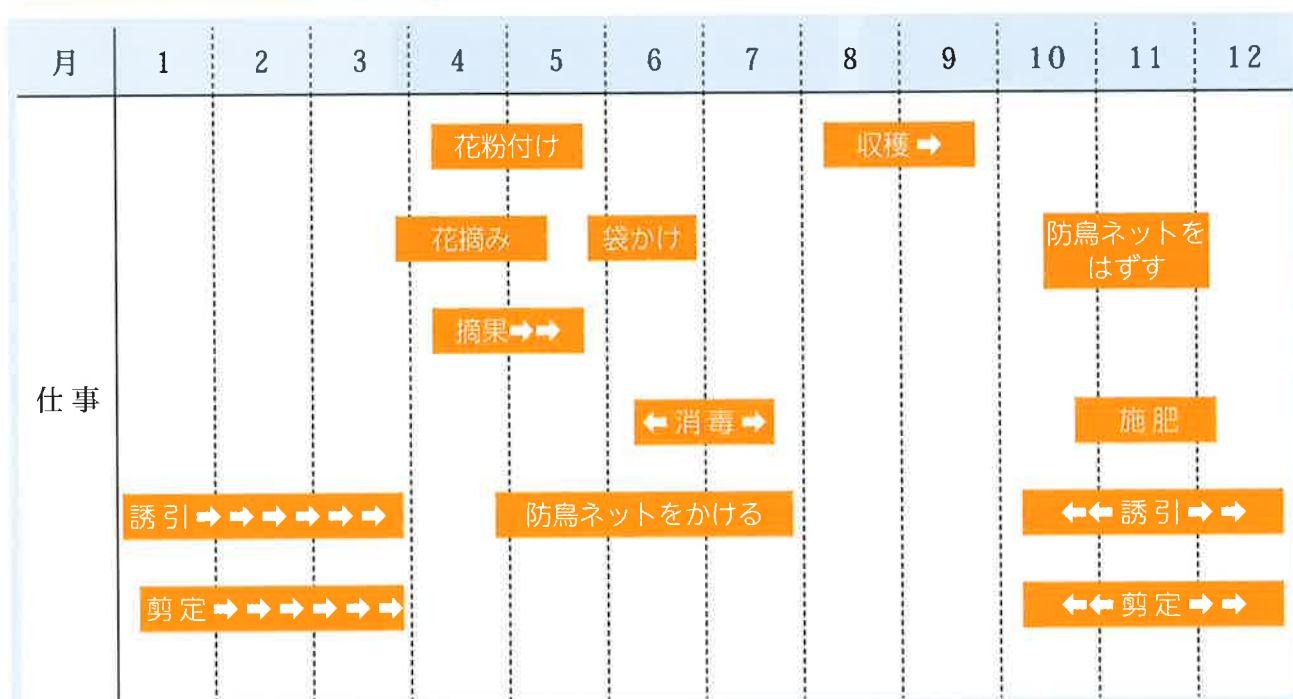
## ②「浜なし」吉村さんの梨作り

横浜の梨は「浜なし」といわれ味の良さで有名です。あざみ野四丁目に住む吉村さんは、浜なしの栽培を中心とした農業をしています。吉村さんの梨園を訪ねてみると、周りは防鳥ネットで覆われています。中に入れてもらうと、上にもネットが張ってありました。畑全体が一つの箱の中に入っているような感じです。また、梨木は整然と並び、枝を伸ばす方向も整えられていて(盃状形)、とてもお行儀よく並んでいます。園の中を見渡すと列をなす幹と天井を覆う枝と葉で、まるで梨の木のトンネルの中にいるような感じがしました。ここまで梨の木を育て収穫するまでには大変なご苦労があったことと思い、お話を聞いてみました。

梨作りの仕事は一年間を通していろいろな仕事があります。



### 農事ごよみ



**花粉付け**：めしべに花粉をつけること

**花摘み**：余分な花を摘むこと

**摘果**：余分な実を摘むこと

**誘引**：伸ばしたい方向に枝を導くこと

**剪定**：必要な枝を残し、不要な枝を切ること

**施肥**：肥料を与えること。

一年中を通して梨の手入れをして8月と9月のはじめまでに収穫を終えます。

収穫の期間は一ヶ月ほどと短いですが、季節ごとに、木の手入れや授粉、花摘みなど一つ一つを人の手で行います。手入れをきちんとするとよい梨ができるそうです。

木の形は盃状形(さかずきの形)にしています。この形に幹と枝を整えると木の手入れや花摘み・花粉付け・収穫などの作業がしやすくなります。

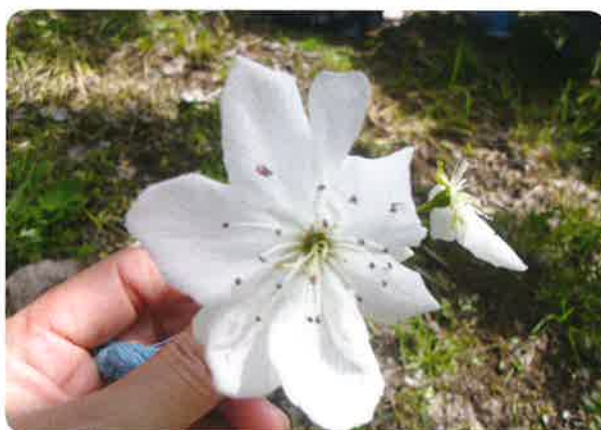


## 吉村さんの話

梨は、直売と予約による宅配だけで、市場に出すことはありません。木で十分じゅくして、おいしくなったところで消費者に食べてもらうためです。苦勞としては、秋の台風、天候不順による雨などです。また、天候のよい年は、甘みのあるよい梨ができます。それが自然の厳しさとめぐみで、自然を相手の仕事なので人の力だけでは、どうにもならない部分があります。

それでも、梨は手をかけたらそのとおりに応えてくれるので努力が実る喜びは大きいです。そこで、私がこだわっているのは土作りです。収穫が終わると牛ふんを入れ、春までに土作りをします。よい土は、梨の木に元気を与え、よい実をつけるもとになります。梨の甘みは、日光と土で決まるといえます。ですから、土づくりに力を入れるのです。また、6月から9月まで夜間に防蛾灯<sup>ぼうがとう</sup>を点けます。夜間に黄色い光を出すことで蛾は昼間だと勘違いし、夜に行われる交配を防ぐことができます。さらに、コンフューザーという、梨の木には直接散布せず、臭いを出す薬を利用し、蛾を混乱させることで卵を産ませない工夫もしています。これらは、使用する農薬をできるだけ減らして、安全な梨をつくる工夫です。

梨を買った方から「ほかの梨とは甘みが違う。」「おいしい。」といわれると本当にうれしいです。



## 7 寺と神社

### ① 文化の中心 おどろき 驚神社

驚神社は、今からおよそ1200年前、奈良時代に建てられたといわれています。平安の昔、この付近は朝廷に馬を献上していた「石川の牧」のあったところです。村の人は、馬を愛し敬っていたので、「敬」・「馬」の二文字が一体となって「驚」(おどろき)神社となったという説があります。

驚神社が文化の中心といわれるのは、毎年秋のお祭(現在は体育の日の前日)に保木・平川・荇子田・船頭・牛込・宮本といった地区から獅子舞や大太鼓・神輿などが驚神社へくりこむからです。秋にお祭りが行われるのは、昔はこの日を境に農閑期に入るという前祝いでもあったためです。どこの農家でも朝早くから赤飯・煮物・天ぷら・煮魚などの料理を作り、祝ったそうです。



【驚神社・鳥居】



【驚神社・本殿】

### ② 神明社

この神社で有名なのは、なんといっても神奈川県指定無形民俗文化財である。「牛込の獅子舞」です。「牛込<sup>うしごめ</sup>」とは、昔、早淵川が氾濫したときに「船頭では船を出して荷物を運んだが、ここの集落では多くの牛が荷物を運んだ」ということから名前がついたと言われています。

この獅子舞は、毎年体育の日の前々日は神明社でその翌日は驚神社で奉納されます。約300年前ぐらいから悪い病気を追い払うことやお米などがたくさんとれること、村が発展することなどを願って踊り続けられました。祭礼では保木・平川・荇子田・船頭・牛込・宮本の各谷戸宮から繰り出す大太鼓・神輿・はやしが旧石川村村社驚神社まで練り歩き、最後にこの獅子舞が神前で奉納されます。

獅子舞にもいろいろな形がありますが、ここでは一人立ち三頭獅子舞といって3人の牛込で生まれた小・中学生の男子が、それぞれ締太鼓を胸につけ、バチを打ちながら舞います。それらの三頭は、剣角(雄獅子)・巻角(雄獅子)・雌獅子と呼ばれ、笛やほら貝、唄などに合わせながら舞う様子は、衣装と共にとっても華やかです。また、この地区は、昔から神様を信じる気持ちが強かったようで、この谷戸宮の神明社の他にも満願寺、御吾妻神社(現在は廃社)、天学教会などがあります。御吾妻神社は「子供神社」とも呼ばれ、毎年4月17日にお祭りが行われていました。昔、体の弱い子がお祈りをしたら丈夫になったということから子どもの神様となりました。



【牛込の神明社】

### ③ 船頭の御嶽神社(表・裏)

昔の船頭地区の人たちは、集落の守り神として、神社を大切にしていました。集落のまとまりは、神社を中心に守られていたので、集落に争いが起こると、



【御嶽神社(表)】



【御嶽神社(裏)】

↘神社も分かれなければなりませんでした。

元石川の船頭には、20戸ほどの家があり、平和な暮らしを続けていましたが、何らかの原因で表と裏の神社に分かれてしまい、御嶽神社は両方残ることになりました。

### ④ 満願寺

真言宗のお寺で、川崎市の柿生にある「王禅寺」の末寺です。約400年前にはすでにあっただと思われ、昔から「かなり格式の高い寺だ」と言い伝えられてきています。その理由の一つとして、江戸時代の徳川2代将軍、秀忠の位牌ひでただがあります。これは、満願寺が徳川家の菩提寺である、東京都芝の増上寺そうじょうじの裏鬼門(西方向)にあたり、守護(守り神)の役割を与えられていたからだそうです。

15年前、新しく立派な山門が建て替えられましたが、今でもある「金剛山」という文字は江戸時代の書の大家、松下烏石によって書かれたものです。



【満願寺(本殿)】



【満願寺(山門)】



【「金剛山」の文字】

## コラム column

江戸時代の初め、石川村は徳川幕府の直轄地でした。その中でも石川村は徳川秀忠の正室、お江(崇源院)の方の化粧料(生活費用)をまかっていた。お江といえば、織田信長の妹であったお市の方と戦国大名浅井長政の娘です。お姉さんの茶々は豊臣秀吉の側室になります。また、3代将軍家光の実のお母さんでもあります。

その後、石川村は徳川家の菩提寺・増上寺領となり、その中でも王禅寺村とともに、御霊屋領(みたやまりょう)となりました。御霊屋領とは、徳川秀忠とお江の方の菩提をともらうために、毎月の月命日の日に、石川村の人々で法事を行っていたということです。そのために、今でも満願寺には秀忠の位牌があるのです。お墓は東京都芝の増上寺にあります。また、御霊屋領ということで石川村の人々は、年賀の他の仕事(助郷など)を免除されていたそうです。

その後、明治時代にはお寺の中に「学校」がおかれ、子どもたちは、「読み書き」を教わりました。春は桜、秋は紅葉が見事です。裏庭の竹やぶにはたけのこがニョキニョキ！！

## ⑤ 西勝寺

新石川の樹木におおわれたところに、ひっそりとたたずんでいます。明治43年には、小学校高等科がおかれて、授業が行われました。かわいいおじょうさんがいます。



【薬師如来像】



【西勝寺・本殿】

## ⑥ 保木の薬師如来像

保木の薬師堂の本尊には高さ85.2cmの、ほぼ人と同じ大きさの薬師如来像が鎮座しています。この仏像は、ヒノキの寄木造りでウルシ塗り仕上げ、昭和58年に神奈川県的重要文化財に指定され、県立博物館に保管されています。毎年、9月12日だけは、保木の薬師堂に帰り、真言宗のお祈りである護摩がたかれます。

この薬師様は、とくに眼の病気にご利益があると、昔から深い親交がよせられていたそうです。近くにはひのみやぐらがあります。



【保木の薬師堂】



【薬師如来像】

## ⑦ 荇子田家型横穴古墳

荇子田朝日公園の中に古墳があります。横浜市の指定文化財です。7世紀前半ごろのこの地域の有力者の墓と考えられています。この古墳は、死者を安置した玄室が家型に横にほられています。このように家型の形をした古墳は少なく、近くでは町田市の玉田谷横穴群がありあす。古代人は死後もなお現世の延長として墓室が生活の場として考えていたようで、このように家の形にしたのではないかと考えられています。



【荇子田朝日公園】



【荇子田家型横穴古墳】



【馬頭観音】

## ⑧ 馬頭観音

近世の農業において、馬・牛は貴重な労働源でした。畑や水田で働いていて、人間のために死んでいった牛や馬の霊をなくさめるために、石に「馬頭観音」と刻んで、道端やお寺に建てたそうです。



## ⑨ 平川神社

平川は、今の美しが丘4・5丁目あたりで、昔は、早淵川の左右に水田が開け、戸数60戸あまりの静かな田園地帯だったということです。神社の起源ははっきりしないのですが、その昔この地に野猿が多くいて田畑をあらしていました。こまった村人は、猿をつかまえました。当時、猿は神の使者とされていたので、猿のたたりや神の罰をおそれて、この社をつくったという伝説があります。



## ⑩ 平川の大灯籠<sup>だいとうろう</sup>

早淵川近くの駐車場の一角に立っています。大正13年(1924年)頃に発行された「山内村名所絵はがき」には、「山内名所薩摩燈籠(明治維新記念)」として紹介されている所から、昔からこの地域の名所の一つだったことがわかります。なぜ、「薩摩燈籠」とよばれているかということ、幕末にこの地域から江戸・薩摩屋敷へ奉公にあがっていた女性が明治になって村に帰る際にもらい受けてきたため、ということです。



## ⑪ 庚申塔<sup>こうしんとう</sup>

暦(こよみ)の庚(かのえ)と申(さる)の両方が合わさる夜を眠らずに、健康で長生きなどを願う信仰が盛んになった時代に建てられた石造物です。石川村の石造物の中でも最も多く建てられ、19基あります。



【庚申塔①】



【庚申塔②】



## 3. 学校の歴史

### 1 むかしの学校

#### ① 学校のはじまり

江戸時代、元石川地域にまだ学校がなかった頃、村の子どもたちは、おそらく「寺子屋」といわれた塾のような所に通っていたと思われます。

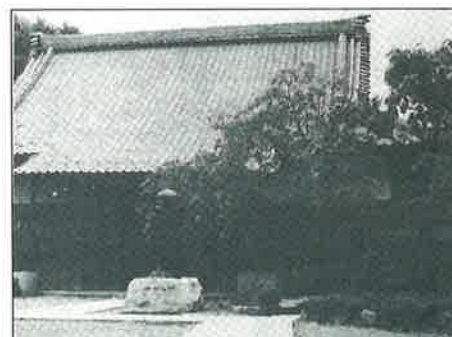
お寺の中で、先生一人に、三、四十人の子どもが集まっ



【寺小屋の様子】

て「読み、書き、そろばん」などを習っていたと考えられます。

明治時代に入り、明治6年に荏田学舎が開かれ、明治8年に荏田学校となって、真福寺を使いました。明治10年には、満願寺に石川学校が開校されたことが記録に残っています。これがこの地域の最初の学校でした。



【満願寺の様子】

#### ② 戦争前の学校

尋常科4年間、高等科も4年間でしたが、義務教育は尋常科までだったので、高等科まで進む子は多くありませんでした。とくに女子は、たいへん少なかったようです。

また、その頃は学校へ行っていない子もいたので、役所が「なるべく子どもを学校へあげなさい」と言っていました。

戦前の小学校(国民学校)では、ふつう、男子と女子は別々の教室でした。今のような男女共学ではなかったわけです。それは、男と女の生き方が異なり、その役割が違うという考えに基づいたものでした。男子が工作の時間に模型飛行機を作り、女子が裁縫をするというふうに授業の内容もいづらか違っていました。



【男子だけの授業風景】



【女子だけの授業風景】



### ③ 戦争中の学校

戦争で空しゅうが始まると、アメリカの飛行機が1万mの上空を通りました。さいわい、空しゅうで焼けた家はありませんでした。

空しゅうが来そうになると、サイレンが鳴ります。すると、防災頭巾をかぶって、急に下校することになり、勉強ができませんでした。(昔の山内小の人の話)

戦争がはげしくなると、だんだんと食糧不足も深刻になりました。働き手のお父さんやお兄さんが戦争に行ってしまう、どの農家でも人手が足りずに困っていました。生徒は先生に連れられて、そういう農家の手伝いにかり出されました。こえおけ<sup>\*</sup>をかついだり、刈り入れを手伝ったり、大人と同じように働かされました。食べ物を増やすために、新しく田んぼを作ったり、グラウンドを畑にしてサツマイモを作る学校もありました。(※こえおけ=うんちやおしっこを入れて、畑にまいて肥料にする。)



【食べ物を増やすために畑を耕す女の生徒】



【防空演習を行うところ】

### ④ 戦争後の学校

義務教育も小学校6年、中学校3年の「六・三制」になったうえ、男女共学になりました。ノートやえんぴつ、着る服もじゅうぶんではなかったもので、何でも大切に使いました。

また、そのころからアルミのコップに<sup>だっしふんにゅう</sup>脱脂粉乳のミルクとコッパン1この給食が始まりました。牛乳からクリームをとりのぞいた脱脂粉乳は、あまり味のいいものではありませんでした。



【新しい教科書を受け取る子どもたち】

## 2 あざみ野第一小学校のあゆみ(年表)

西暦	元号	学校の移り変わり
1873年	明治6年	● 荏田学舎が観福寺に開校
1875年	明治8年	● 荏田学校となる
1877年	明治10年	● 石川学校ができた 石川村の中央にあった 満願寺に開校
1880年	明治13年	● 石川学校が 台風でこわれた 不動堂と薬師堂で勉強した
1887年	明治20年	● 石川学校が 陳願堂にうつった 昭和4年まで 授業をしていた
1900年	明治33年	● 尋常石川小学校と 尋常荏田小学校になった



荏田の真福寺(旧観音堂)



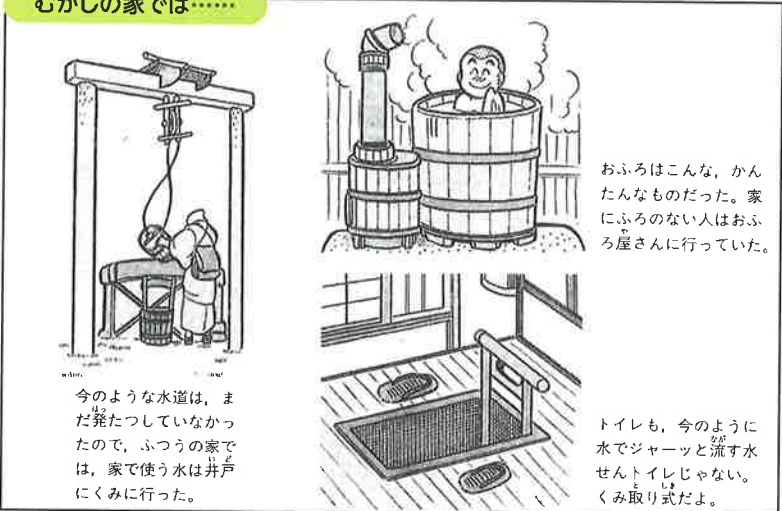
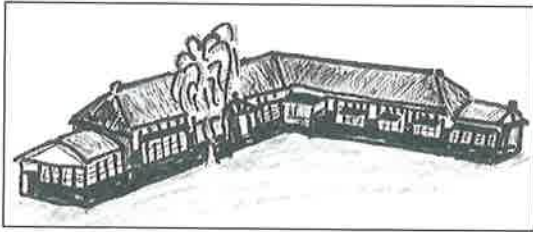

満願寺山門



かつての保木薬師堂



陳願堂入口の金作地藏

西 暦	元 号	学校の移り変わり
1902年	明治35年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 尋常石川小学校は、尋常第一山内小学校になった</li> <li>● 尋常荏田小学校は、尋常第二山内小学校になった</li> <li>● 尋常山内第一小学校は、尋常高等第一山内小学校になった</li> </ul>
1903年	明治36年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 西勝寺高等科を置く 尋常科：230人 高等科：2学級</li> </ul> <p data-bbox="518 555 778 584">むかしの家では……</p> <div data-bbox="518 568 1302 1077">  <p data-bbox="587 949 756 1070">今のような水道は、まだ発つていなかった。ふつうの家では、家で使う水は井戸にくみに行った。</p> <p data-bbox="1118 725 1287 824">お風呂はこんな、かんたんなものだった。家に風呂のない人はお風呂屋さんに行っていた。</p> <p data-bbox="1114 981 1283 1079">トイレも、今のように水でジャーツと流す水せんトイレじゃない。くみ取り式だよ。</p> </div>
1923年	大正12年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 尋常第二山内小学校は、関東大震災で大きな損害を受けた</li> </ul> <div data-bbox="512 1167 1046 1397">  <p data-bbox="1066 1249 1289 1326">思い出の尋常高等第一山内小学校 徳江善衛氏 画</p> </div> <div data-bbox="512 1413 1046 1637">  <p data-bbox="1066 1496 1289 1572">思い出の尋常高等第二山内小学校 徳江善衛氏 画</p> </div>
1937年	昭和12年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新しく校舎を建てた</li> <li>● 山内尋常高等小学校(本校)となった(2階建て14教室)</li> <li>● 元の2つの小学校は、第一分教場、第二分教場とした</li> <li>● 1～3年までは分教場で、4年以上は本校で勉強をした</li> </ul>
1939年	昭和14年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜市山内尋常高等小学校と名前がかわった</li> </ul>

西暦	元号	学校の移り変わり
1941年	昭和16年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜市山内国民学校と名前がかわった 学級数：13 児童数：695人</li> </ul>
1947年	昭和22年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜市立山内小学校と名前がかわった</li> </ul> <div data-bbox="592 454 1241 1370"> <div data-bbox="938 495 1193 533" style="background-color: #90EE90; border-radius: 10px; padding: 2px;">このころの社会情勢</div> <div data-bbox="603 465 906 651"> </div> <div data-bbox="619 656 906 757"> <p>オリンピックと同じ年に、東海道新幹線が開通。東京から新大阪までやく4時間で行けるようになりました。</p> </div> <div data-bbox="608 763 922 987"> <p>ラジオ・テレビの受信契約数 (単位:千)</p> </div> <div data-bbox="632 992 906 1070"> <p>1960年にはカラー放送が始まり、このころから一家に1台、テレビがおかれるようになりました。</p> </div> <div data-bbox="938 589 1217 1003"> </div> <div data-bbox="946 1003 1225 1104"> <p>テレビ放送が始まる さいしょはねだんが高く、買う人が少なかったので、街頭や飲食店におかれたテレビに人々が集まりました。</p> </div> <div data-bbox="619 1126 906 1350"> </div> <div data-bbox="651 1350 890 1370"> <p>国道246号線の工事 (昭和37年)</p> </div> <div data-bbox="938 1126 1225 1350"> </div> <div data-bbox="986 1350 1177 1370"> <p>国道246号線 (長津田町)</p> </div> </div>
1967年	昭和42年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 校舎を増やした 鉄筋校舎3階建て 6教室 特別教室2</li> </ul> <div data-bbox="603 1496 1305 1944"> </div> <div data-bbox="799 1951 1114 1989" style="background-color: #90EE90; border-radius: 10px; padding: 2px;">このころの山内小学校</div>

西 暦	元 号	学校の移り変わり
1969年	昭和44年	● 山内小学校から美しが丘小学校が分かれた
1973年	昭和48年	● 山内小学校から荏田小学校が分かれた
1974年	昭和49年	● 山内小学校からすすき野小学校が分かれた
1976年	昭和51年	● 山内小学校から元石川小学校が分かれた
		 <p data-bbox="655 1104 1198 1144">まだ木造校舎が半分残っていた山内小学校</p>
1980年	昭和55年	<p data-bbox="480 1249 1262 1339">● 山内小学校からあざみ野第一小学校が独立・開校 児童数：641人</p> <p data-bbox="512 1346 1310 1435">【学区】あざみ野第一、二、三、四丁目 元石川町(荏子田・船頭地区)大場町の一部(700番台)</p>  <p data-bbox="759 1951 1070 1991">できたばかりの校舎</p>

西暦	元号	学校の移り変わり
1982年	昭和57年	●校章ができた
1982年	昭和57年	●あざみ野第一小学校からあざみ野第二小学校が分かれた ●あざみ野三丁目と大場町は第二小の学区になった
1983年	昭和58年	●ワイワイランドができた ●校歌ができた ●夕すずみ会が始まる
		
ワイワイランド新聞記事(昭和58年6月25日)		
1985年	昭和60年	●荏子田小学校ができた
1987年	昭和62年	●やぎの飼育が始まる
1990年	平成2年	●大場町の学区がふえた
1992年	平成4年	●あざみ野三丁目の一部が学区になった
1994年	平成6年	●ワイワイランドに遊び道具ができた
1995年	平成9年	●焼窯庫ができる
1998年	平成10年	●ワイワイランドの歌ができた ●ランチルームができた



西 暦	元 号	学校の移り変わり
2003年	平成15年	● 学級増のため、ランチルームがなくなった
2004年	平成16年	● 学級増のため、あざみ野ギャラリー・教具室がなくなった 教具室は、3階のワークスペースに移った
2005年	平成17年	● 学級増のため、図工室がなくなった図工準備室は、 4階のワークスペースに移った ● プレハブ図工室ができる ● 最後のヤギが死ぬ
2006年	平成18年	● 給食業務民間委託開始 ● 全教室に扇風機がつく
2008年	平成20年	● 全教室にインターホンがつく ● 新しい百葉箱ができる
2009年	平成21年	● 全教室に50インチテレビが入る
2010年	平成22年	● 太陽光発電設備がつく
2012年	平成24年	● メール配信始まる
2014年	平成26年	● 普通教室にエアコンがつく
2015年	平成27年	● プールの塗装工事が行われる ● 校庭の遊具の配置換えを行う
2017年	平成29年	● 図書室が新しくなり、4階に移動する ● 新しい図工室ができるプレハブから、 2階旧あざみルームへプレハブの解体も行われる ● のびのび畑の土の入れかえをする ● 体育館のトイレが新しくなる ● 特別教室にエアコンがつく ● ワイワイランドの遊具が、老朽化により解体される
2018年	平成30年	● ワイワイランドに新しい遊具が設置される



### 3 あざみ野第一小学校(資料)

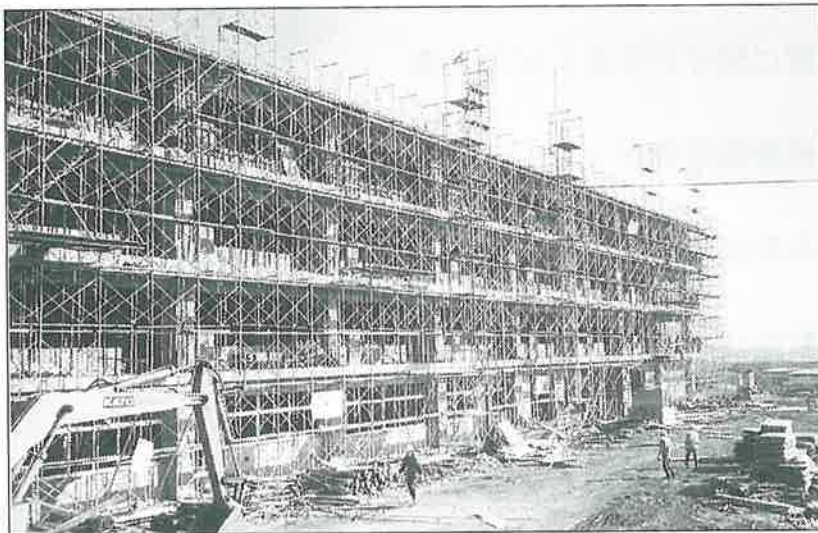
#### ① 開校まで

あざみ野は、もともと元石川町字船影(ふなかげ)、矢指(やさし)という地名でした。このあたり一帯(いったい)は小さな谷戸(やと)で、田畑がちらばり、ぞう木林もあり、春にはひばりがさえずり、夏にはホタルがまうという、本当に静かな山村でした。今、学校のある場所は、一面の雑草におおわれていたそうです。

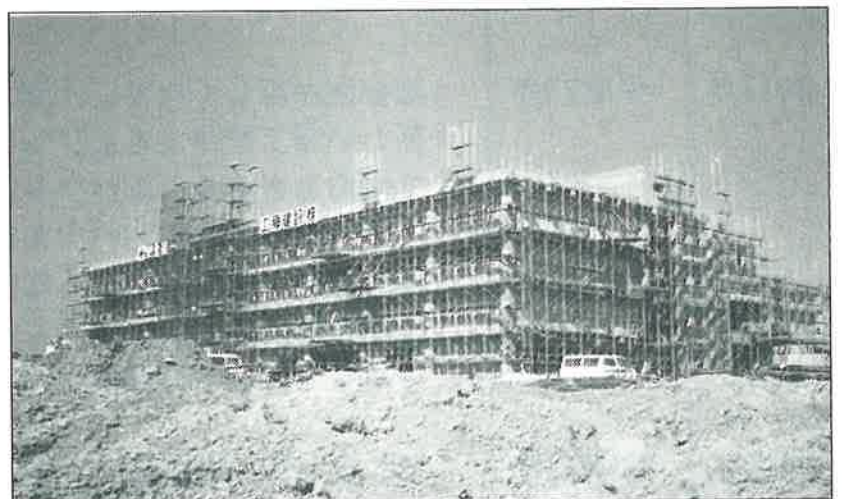
しかし、昭和41年の田園都市の開通により、この静かな土地にも家がたちはじめ、それにともなって、山内小学校の児童数もだんだんふえてきました。

そのため、美しが丘小学校、荏子田小学校、すすき野小学校、元石川小学校が新しくたてられました。そして、昭和54年7月9日、あざみ野方面に新しく学校をつくることになり、8月23日から工事がはじまりました。

それから6か月半後の昭和55年3月7日、横浜市議会で「横浜市立あざみ野第一小学校」の名が決まったのです。

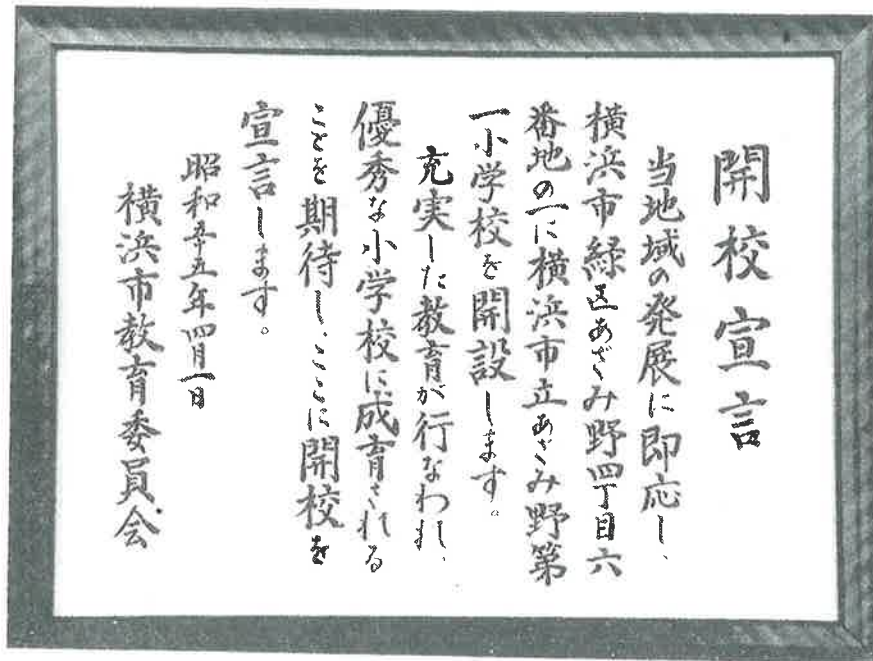


けんちく中のあざみ野第一小学校です。まわりの様子から、まだ家もあまりたっていないことがわかります。





## ② 開校宣言



## ● 開校3年目のあざみ野第一小学校

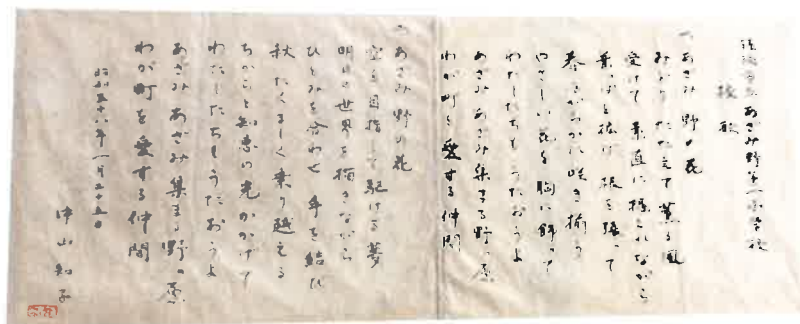


### ③ 校歌・校章

#### ● 校歌について

##### 元本校教諭 松田 幸 先生の話

「あざみ・野の花……集まる野原……」一つひとつのことばにあざみ野の地を愛せよとの気持ちがこめられています。



とても新しい住宅地だったあざみ野は、若いエネルギーでみちあふれていたようです。開校3年目の昭和58年にできあがり、その年の卒業式には、校歌の明るい歌声が体育館いっぱいに広がりました。

#### ● 校章のゆらい

昭和56年に学校や地域の人、それに学区外の人々に広く呼びかけて募集した結果、当時4年生だったう鶺養順子さんのデザインが選ばれ、村岡先生の補作により、昭和57年2月15日に完成しました。

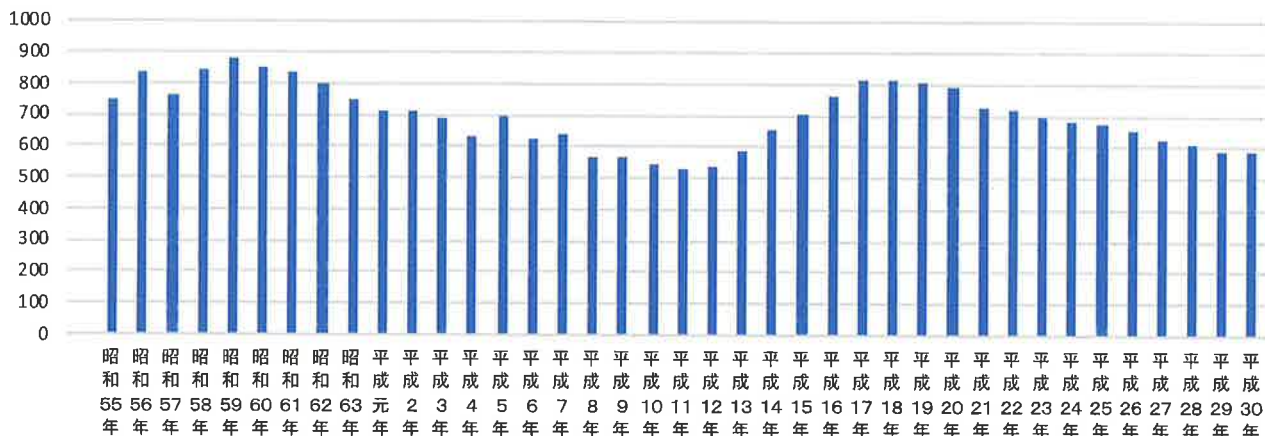
本校のある「あざみ野」はもともと小高い丘で、野あざみが多く生えていたといわれています。校名も「あざみ野第一小学校」であることから、あざみの花をまわりに、真ん中に「一小」と校名



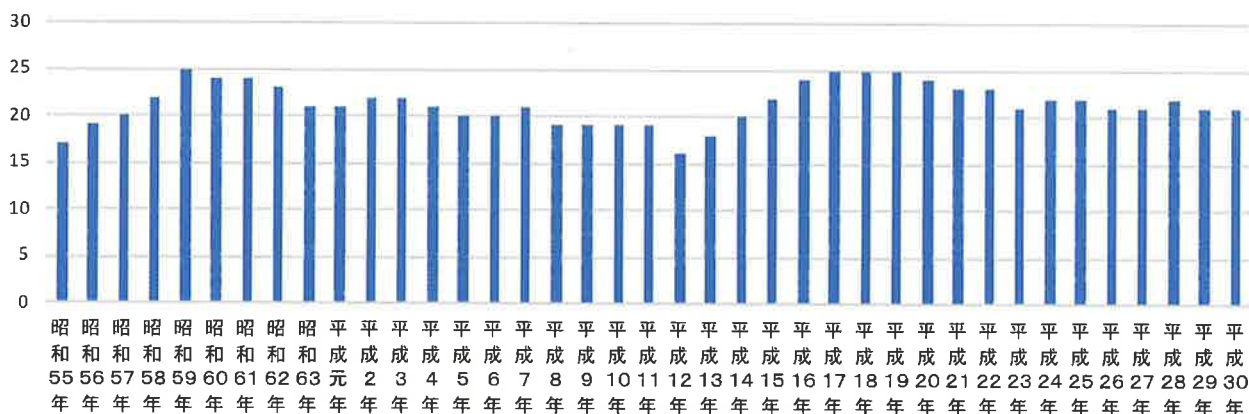
を入れてあります。「あざみ」という花は野性的で、何事にも負けないで咲く花だそうです。明日の日本をつくっていく子どもたちにふさわしいようにという願いがこめられています。

# あざみ野第一小学校の児童数・学級数・教職員数

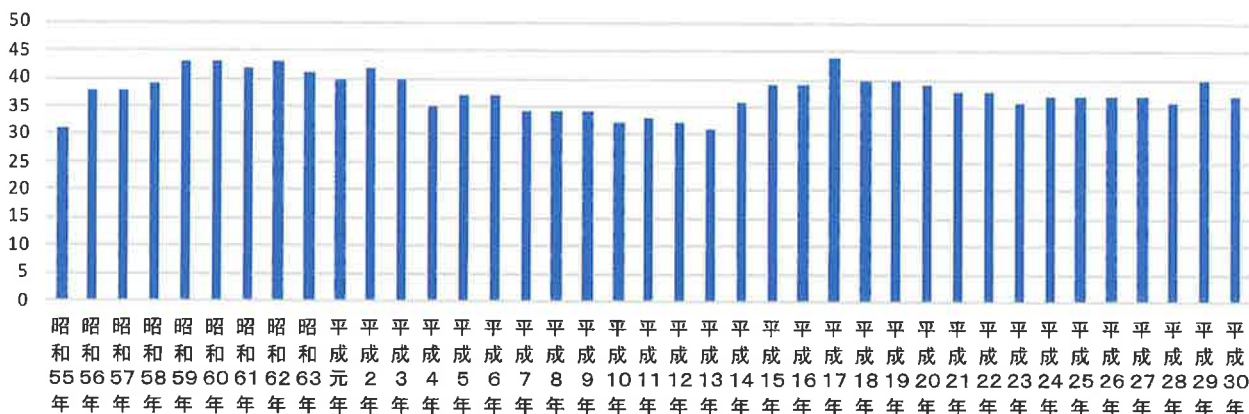
## 児童数の変化



## 学級数の変化



## 教職員数の変化



4  
航空写真

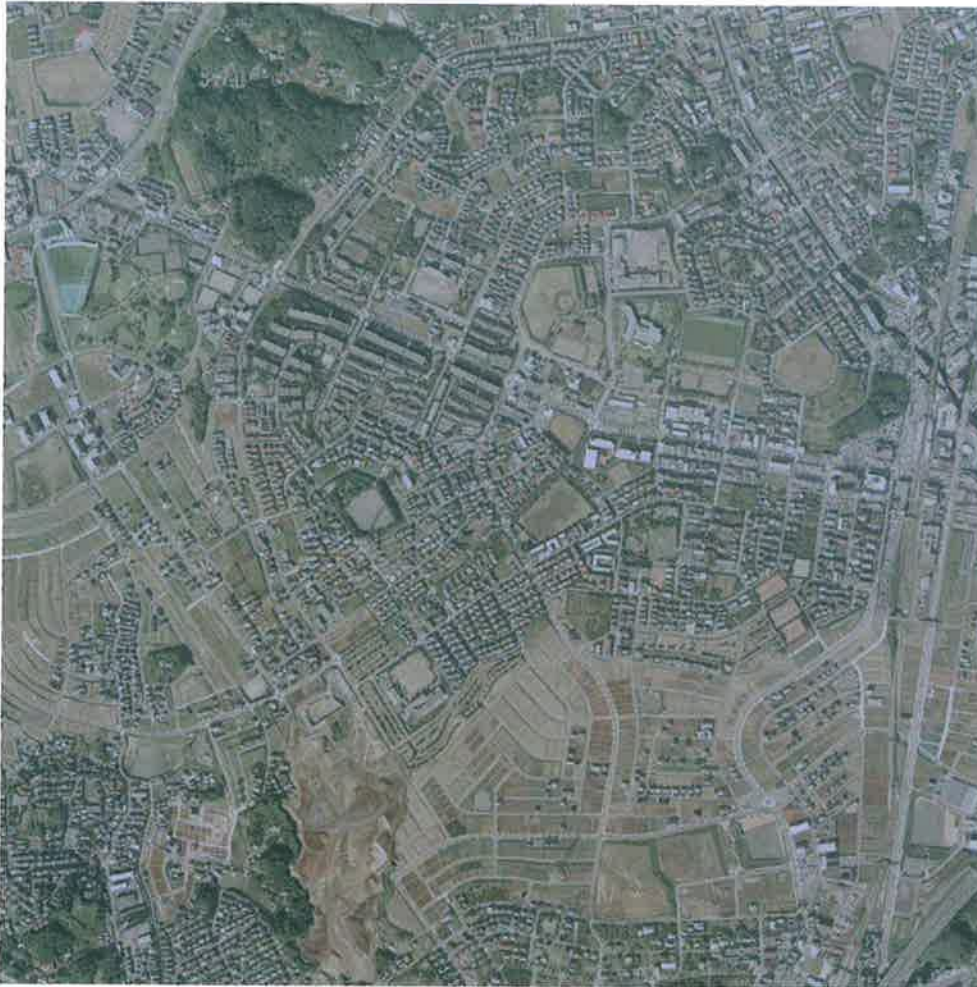
昭和22年の  
あざみ野周辺



昭和54年の  
あざみ野周辺



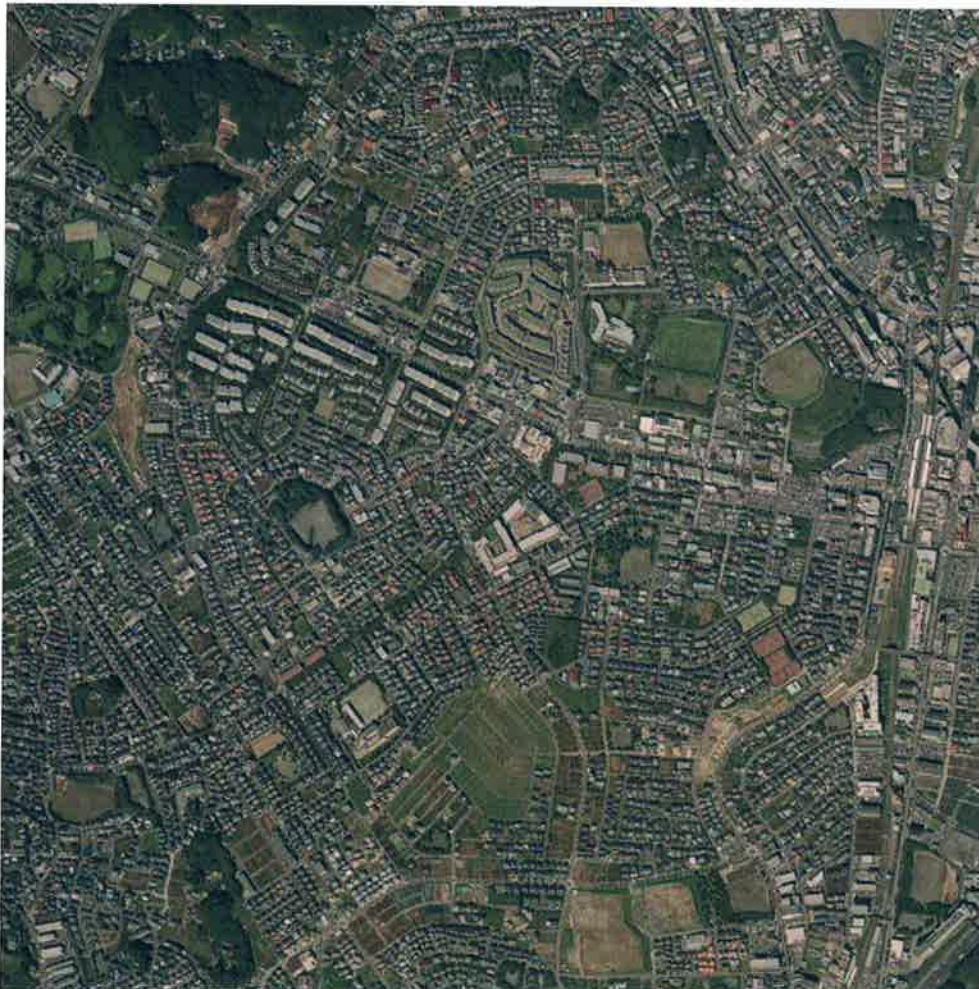
出典：国土地理院ウェブサイト



---

平成4年の  
あざみ野周辺

---



---

平成16年の  
あざみ野周辺

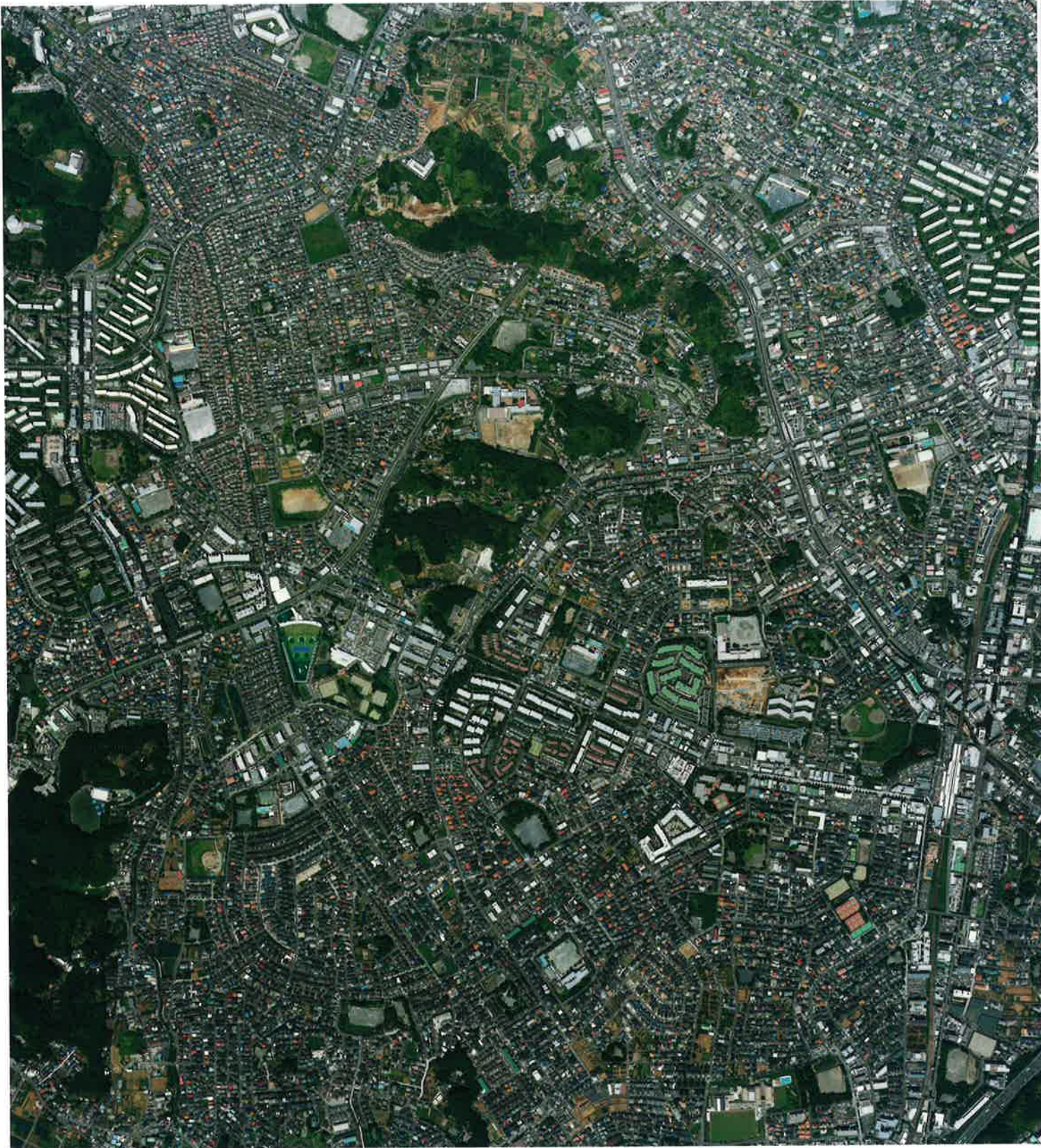
---

出典：国土地理院ウェブサイト

---

平成29年のあざみ野周辺

---



出典：国土地理院ウェブサイト

## 4. あざみ野の歴史

### 1 あざみ野の昔をたどろう

#### 明治のころ

1889年(明治22年)、石川村と荏田村が合わさって、**山内村**が誕生しました。しかし、そのころは、横浜市の中心ではありませんでした。「神奈川県都筑郡山内村」というのが、今みなさんが住んでいるあざみ野の地区の元の名前です。

#### 昭和のころ

1939年(昭和14年)に横浜市に入れられ、「**横浜市港北区元石川町ならびに荏田町**」となりました。明治・大正・昭和中期までの山内村の人々の生活は、あまり大きく変わりませんでした。

#### ● あざみ野

たまプラーザのある美しが丘から進められてきた開発はどんどん広がっていき、1996年(昭和51年)には、元石川町から「あざみ野」が誕生しました。



昭和47年 山内中学校付近から

#### ● 緑区

その時期に横浜市の人口も大きく増えてきたので、港北区から分かれて新しい区をつくることになりました。こうして新しい区「**緑区**」が誕生しました。

#### ● 田園都市線の開通

1966年(昭和41年)田園都市線の開通で、大きな住宅地として開発されていくことになりました。



#### 平成のころ

港北区から分かれた時の緑区の人口は約12万人でしたが、平成6年では約45万人と大きく増えてきました。中でも、みなさんが住んでいる「あざみ野」をはじめ、田園都市線沿いの地区は**人口急増地区**になってきました。

#### ● 青葉区と都筑区

1994年(平成6年)11月に、緑区と港北区から新しく青葉区と都筑区が誕生しました。みなさんが住んでいるあざみ野は、緑区から青葉区になりました。

## 2 あざみ野の地区のうつりかわり(年表)

西暦	元号	できごと
1868年 1871年	明治元年 明治4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神奈川県となる</li> <li>● 神奈川県となる 荏田村：176軒(988人) 石川村：274軒(1383人)</li> </ul>
1874年	明治7年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 天秤や背負子を使って仕事した</li> </ul>
1877年	明治10年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 川和に郵便役所ができた ・大八車が使われ始めた</li> </ul>
1882年	明治15年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 川和に警察署ができた ・行灯に変わり石油ランプが使われ始めた (ランプ掃除は子どもの仕事であった)</li> </ul>
1887年	明治20年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製紙工場ができた ・150人の女の人が働いた</li> </ul>
1889年	明治22年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 山内村ができた (荏田村と石川村と黒須田村の一部を合わせた村) ・自転車が使われ始めた(山内村では2台だけ ※お医者さんと工場の人)</li> </ul>
1892年	明治25年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 山内村の人口：418軒(2860人)</li> <li>● 荏田の町で大火事が起きる(ほとんどの家が焼けた)</li> </ul>
1900年	明治33年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜線ができた《東神奈川～八王子》 ・一日6往復だけ</li> <li>● 尋常荏田小学校は、尋常第二山内小学校になった</li> </ul>
1917年	大正6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 荏田～溝の口に乗り合い馬車が走った はねつるべの井戸がポンプ井戸に変わってきた</li> </ul>
1921年	大正10年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 荏田～溝の口に6人乗りのバスが通る ・1日4回だけ</li> </ul>



大八車(荷物を運ぶのに使われた)



石油ランプ



西暦	元号	できごと
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 養蚕がさかんであった</li> </ul>
1923年	大正12年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関東大震災が起きた               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山内地区ではかたむいた家が多かった</li> <li>・ 畑に地割れが見られた</li> </ul> </li> <li>● 一部の家に電気がひかれた(20ワットの電球)</li> </ul>
1924年	大正13年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 玉川に二子橋完成</li> <li>● 渡し船がなくなった</li> <li>● 山内村に初めてラジオが入る</li> </ul>
1927年	昭和2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 荏田～中山・中山～柿生にバスが通る</li> <li>● 山内村が横浜市に入る               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都筑群の名が消え横浜市港区となる</li> </ul> </li> </ul>
1939年	昭和14年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 12月戦争が始まる               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 砂糖、マッチ、味噌、米、醤油などは決まった分しか買えなくなった</li> </ul> </li> </ul>
1941年	昭和16年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜大空襲でたくさんの町が焼けた               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こどもの国には田奈爆薬庫があったが空襲にはあわなかった</li> </ul> </li> </ul>
1945年	昭和20年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 8月戦争が終わる</li> </ul>
1948年	昭和23年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 荏田～綱島にバスが通った</li> <li>● テレビ放送が始まる</li> </ul>
1959年	昭和34年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東急電鉄が中心になって、美しが丘地区に家を建てるための開発を始めた</li> </ul>
1964年	昭和39年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東海道新幹線ができた               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新横浜駅ができた</li> </ul> </li> </ul>



1945年5月 横浜大空襲



オリンピックと同時に開通  
東京～新大阪が約4時間でいけるように

西 暦	元 号	できごと
1965年	昭和40年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国道246号線ができた ・ こどもの国ができた</li> </ul>
1966年	昭和41年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 田園都市線が通る 《溝の口～長津田》</li> </ul>
1968年	昭和43年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東名高速道路ができた</li> </ul>
1969年	昭和44年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緑区が誕生した</li> <li>● 元石川町から あざみ野一丁目～四丁目ができた</li> </ul>
1977年	昭和52年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東急田園都市線あざみ野駅ができた</li> </ul>
1980年	昭和55年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 山内地区センター・山内図書館ができた</li> <li>● 元石川の一部が 荏子田となってわかれたあざみ野第一小学校 開校</li> </ul>
1993年	平成 5 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜市営地下鉄ができた《新横浜～あざみ野》</li> <li>● 横浜市営地下鉄あざみ野駅ができた</li> </ul>
1994年	平成 6 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 青葉区ができた 「青葉区」の区名は、木々に囲まれた 美しい街のイメージ 若い芽が生き生きと育つように、将来に向けて伸びやかに発展する区でありたいとの願いを込めて付けられました。</li> </ul>
2001年	平成13年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大場みすずが丘地区センターができた</li> </ul>
2005年	平成17年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アートフォーラムあざみ野ができた</li> </ul>
2007年	平成19年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 黒須田小学校 開校</li> </ul>
2009年	平成21年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 青葉区マスコット 『なしかちゃん』が制定された</li> </ul>



青葉区シンボルマーク



青葉区マスコット『なしかちゃん』

### 3 あざみ野 今とむかし

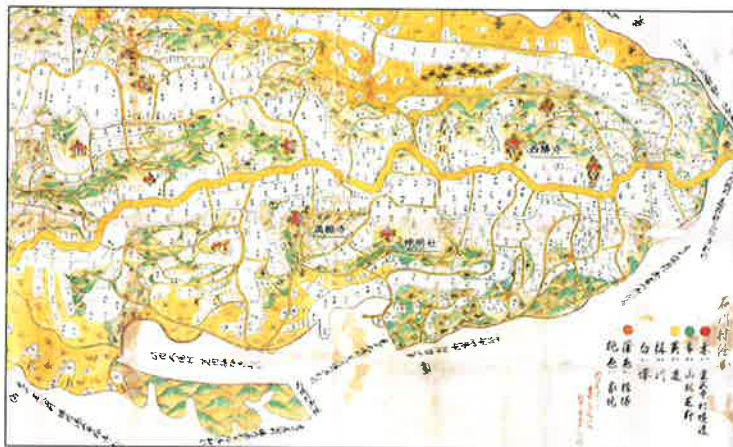
#### ① むかしの山内地区

##### ● 「船頭」の名前の由来

石川村と荏田村とで早瀬川の水あらいがあり、荏田村の人たちが川をせきとめ、石川村が水びたしになりました。その時、船をつかって出した家があった場所で、家の屋号にもなっています。



下和田と呼ばれた金子さんの家  
現在、四谷大塚あたり(昭和39年ごろ)



飯島さん宅  
現あざみの駅東口付近(昭和46年ごろ)



あざみ野駅建設看板(昭和51年5月)  
提供：東急電鉄



あざみ野駅建設途中(昭和52年)  
提供：東急電鉄

## ② 今のあざみ野の町のようす

(i) 田園都市線・市営地下鉄が通り、あざみ野駅がある。

バス・自動車がたくさん走っている。

(ii) 駅周辺の主な学校は、

あざみ野第一小・あざみ野第二小・黒須田小・山内小・あざみ野中・元石川高校などがある。

(iii) 山内図書館・山内地区センターがある。

(iv) あざみ野郵便局・多くの銀行・信用金庫がある。

あざみ野商店街には、多くの店やスーパーなどがある。

多くの住宅や団地・マンションがある。

公園やグラウンドがあり、道には街路樹が植えられている。

(v) 田や畑が少なくなってきた。

## ③ 昔のあざみ野の町のようす〈吉村勝太郎さんの話\*〉

(i) 電車が通り、駅ができるまで

- 1980年ごろはバスで東京や横浜に出て行っていた。
- それ以前は自転車で学校や会社に通っていた。
- 遠足は歩いていくのがふつうであった。
- 戦争が終わって町の人達と東急が話し合って町づくりと電車をひくことになった。
- あざみ野駅ははじめのころはなかった。
- やがて地下鉄も来るようになった。

(ii) 学校ができるまで

- むかしは山内第一小学校といって美しが丘五丁目の丘の中ほどにあった。
- 昭和12年に今の山内小学校へうつった。そのころ学校は一校。
- 昭和22年に山内中学校ができた。
- その後町におおぜいの人々が住むようになり、美しが丘小(44年)荏田小(48年)すすき野小(49年)元石川小(51年)あざみ野第一小(55年)と作られていった。
- あざみ野第一小からあざみ野第二小ができた。

### (iii) 山内図書館・山内地区センター

- 昭和14年に横浜市といっしょになった。それまでは都筑郡山内村石川とっていた。役場が山内小学校前にあった。横浜市になって港北区石川町となった。区役所が菊名にあり遠くてたいへんだった。
- 戦争が終わって町の人が山内小のうらに山内出張所のたてものを作って仕事した。
- 近くてべんりになった。
- 区画整理のときに土地を用意して出張所を移して山内支所となった。そのとき、町の人たちの希望で図書館と地区センターができた。
- 山内支所は、その後市ヶ尾に移り北部支所となった。

### (iv) 昔の家の数と仕事

- 中村、牛込、船頭といった部落があり、30件ぐらいしかなかった。
- 今はにぎやかな二丁目、三丁目には家はほとんどなかった。
- そのころの家の仕事は農業であった。ひまなときは蚕を飼ったり、まきや炭を作ったりしていた。

### (v) 米作りの仕事

- なわしろ・・・細長く土をならして種をまく
- なえとり・・・主に女の人がなえをぬいて束にする
- 田うない・・・人・牛・馬の力で田をたがやす
- 田の草取り・・・夏の暑い日に手や機械を使って草を取る
- 稲刈り・かげぼし・・・稲を刈って束ね、木や竹で作ったしばにかけてかわかす
- 稲こき・ほしもの・・・稲を茎からはなしてもみにして、むしろに広げてかわかす
- もみすり・検査・・・もみの皮を取り、俵につめて検査を受け、等級を決める

#### 昔あったあざみ野の行事

##### 【さいのかみ】

おふだやおだるまの古くなったものを燃やした

##### 【初うま】

お稲荷様をまつた

##### 【道ぶしん】

村の道を自分たちの手で直した

##### 【雨ごい】

雨が降らないときに神様にお願いした

#### 昔の子どものくらし

##### 【家の手伝い】

畑仕事、炊事、おつかい、風呂たき

##### 【子守り】

きょうだいが多く、年上の子がめんどうを見た

##### 【家畜の世話】

にわとり、ぶた など

※吉村勝太郎さん：美しが丘にお住まいの、元横浜市小学校の校長先生

## ④ 読み物資料 〈おとなの人に読んでもらいましょう〉

### ● 関東大震災：笠原 久蔵(当時7歳)

その日は第二学期の始業式で、白がすり、袴に帽子をかぶって帰宅。家の前の池や川でドジョウを獲っていたら、ゴーツという地鳴りとともに地面が大きく揺れ、獲物を入れていたタライごと池の中に落ちた。わが家はかなり古かったが、倒壊はまぬがれ、少し傾いた程度ですんだ。近所の草屋根の家がほとんど潰れていた。

校舎も半分以上壊れ、近くの寺で授業が再開されたが、そんな状態が1年くらいも続いたと思う。市内の親類で家をなくした人たちがうちに身を寄せていた。

数日間は、夜になると、市街地にあたる東の空が真っ赤に焼けるのが見えた。とても恐ろしかった。

### ● 横浜大空襲：饗場 <sup>あいぼ</sup>ハナ(当時30歳)

20年4月15日深夜、空襲警報が鳴った。まもなくしてドスンという音がして、玄関先が燃え出した。夫は横須賀に出征していたし、早く火を消さなきゃとあせったけど、姑に「命のほうが大事なんだから」と言われて、小学1年生と3歳の子供を抱えて、4人で前の田んぼに逃げた。防空頭巾と薄いふとんをかぶって、水びたしの田んぼに伏せて、B29が遠くののを待った。子供は、「お口に水がはいる」と言って泣いた。

そのうち、町内会の方が2人助けに来てくれた。私は裏庭の池から水をくみ出し、3人でバケツリレーしてやっと火を消しとめた。モンペはぐっしょり、いつのまにか池の中にはいつていた。夢中だった。家の燃え始めた時の恐怖といたらなかった。



### ● 人も建物も疎開、そして勤労働員

戦争が進展するにともない、市民生活が抱える困難と矛盾は一層進化する。昭和19年(1994)4月21日に、鶴見区内で最初の建物疎開が実施された。空襲のさいに類焼、延焼を防ぐために空地を作り出すことを目的とし、「疎開」をいう名のもとに建物を壊す措置である。住み家を破壊された人びとは、行くあてもなく途方に暮れるのみ。なすすべもなかった。

子供たちの疎開も行われた。防空・防火活動の際に子供たちが足手まといになることをさけ、つぎの若い世代を「人的資源」として確保するためである。幼い心身には、過酷な体験であった。疎開したある児童の手紙によれば5時30分の起床から夜8時30分までのあいだ、スケジュールが細かく定められている。月に8回の入浴、自習ばかりの勉強はともかく長期に及ぶ集団生活と食料不足は、それぞれの心に大きな傷を残した。一方、中等学校以上の学生は、男女問わず勤労働員をかけられ、あちこちの工場で働かされていた。

## ⑤ 田園都市線・市営地下鉄線の開通

あざみ野が現在のようなまちに発展したのは、昭和41年に東急田園都市線が開通してからのことである。東京・川崎方面への通勤・通学が楽になったので、家がたくさん建つようになった。さらに、平成5年には、市営地下鉄のあざみ野駅が開業、田園都市線は、他の線と結び、直通運転がされるようになり、人口は、ますます増加した。平成6年11月6日、港北区と緑区を再編し、青葉区と都筑区を新設した。住所は、横浜市緑区あざみ野一丁目～四丁目となった。



## ⑥ あざみ野駅 名前の由来

元は、旧緑区の元石川町、大場町、美しが丘五丁目の一部であった。1970年代に入って多摩田園都市の開発が進み、区域の人口が増加する中、新しい町名が設けられることになった。1976年(昭和51年)に地元の要望で、アザミが咲き乱れる野のイメージから「あざみ野」という地名が設けられた。1977年(昭和52年)に当時の田園都市線では最も新しい駅となるあざみ野駅が開業したが、これは町名に基づいた駅名である。

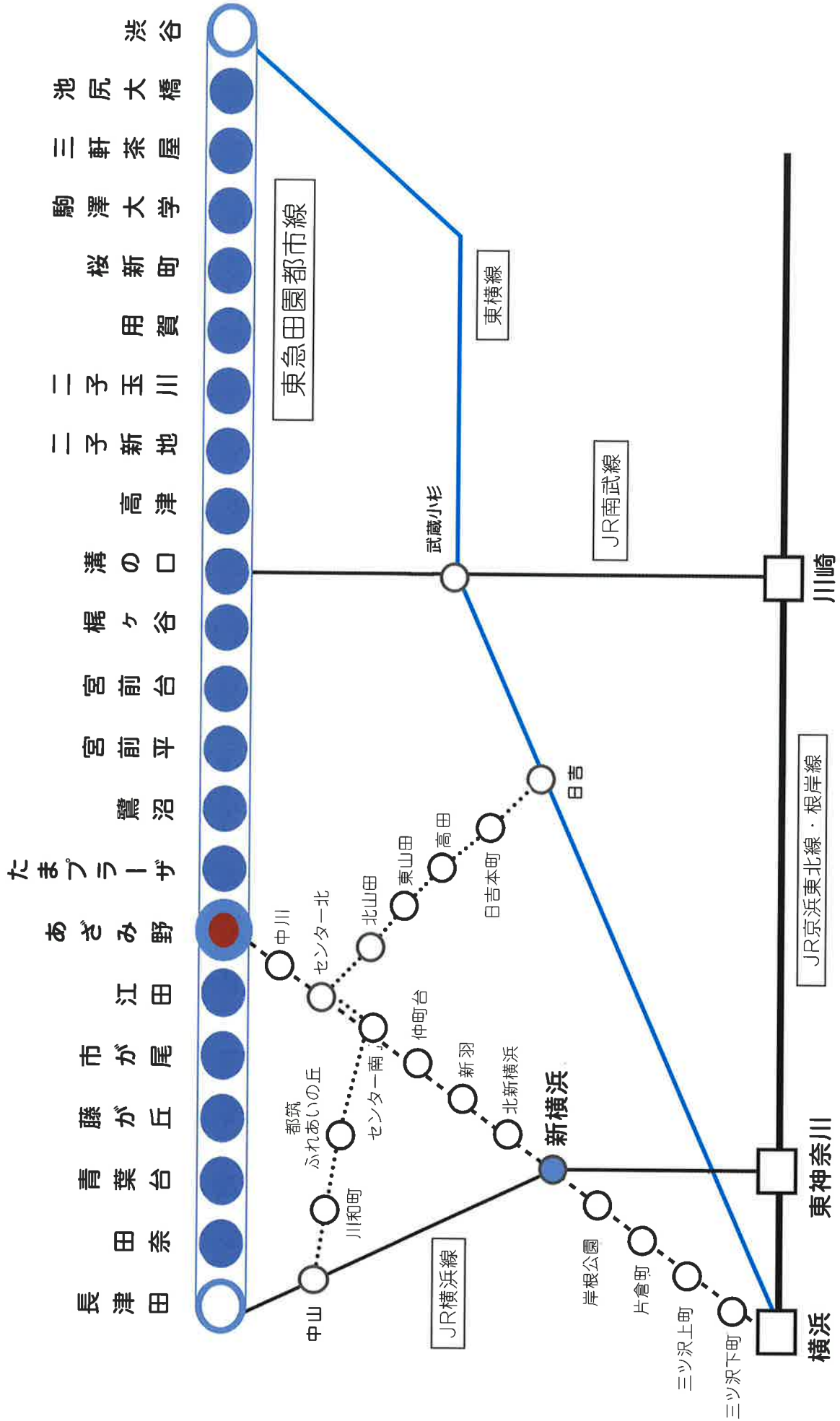


平成30年 あざみの駅の姿

年月日	おもなできごと
昭和2年 7月	●《二子玉川～溝の口》が開通する。
昭和28年 1月	●【多摩川田園都市線】構想が発表される。
昭和41年 4月	●東急田園都市線《溝の口～長津田》が開通する。
昭和42年 4月	●子どもの国線が開通する。
昭和43年 4月	●《長津田～つくし野》が開通する。
昭和47年 4月	●《つくし野～すずかけ台》が開通する。
昭和51年 10月	●《すずかけ台～つきみ野》が開通する。
昭和52年 4月	●《渋谷～二子玉川園》が開通する。
昭和52年 5月	●東急田園都市線・あざみ野駅が開業する。
昭和53年 8月	●田園都市線・新玉川線・営団地下鉄半蔵門線の3つが、直通運転をする。
昭和59年 4月	●東急田園都市線《つきみ野～中央林間》が開通する。
昭和63年 4月	●半蔵門線《半蔵門～大手町》が開業する。
平成元年	●半蔵門線・三越前が開業する。
平成2年	●半蔵門線・水天宮前が開業する。
平成5年 3月	●横浜市営地下鉄線ブルーライン《新横浜～あざみ野》開業
平成15年 3月	●《水天宮前～押上》が開通し、 中央林間から南栗橋までの100kmが直通となった。 (東部伊勢佐木線・日光線・営団地下鉄半蔵門線・東急田園都市線)
平成20年 3月	●横浜市営地下鉄線グリーンライン 《日吉～中山》開業



# あざみ野駅を中心とした鉄道路線図



## 5. 資料

### 1 あざみ野小学校の周り



早野聖地公園



嶮山小

#### 御嶽神社(すすき野)

祭っている神様は、「やまとたけるのみこと」です。地域の守り神として昭和50年11月1日に新築されました。



すすき野消防署



桐蔭学園



すすき野小



すすき野中



横浜総合病院



黒須田小

#### 稲荷山古墳

4～7世紀、古墳時代に造られたもので、首長とその一族のお墓です。

#### 横浜歴史博物館

横浜2万年の歴史の映像や展示物、大塚・歳勝土遺跡を保存した歴史公園があります。

(市営地下鉄 センター北駅から歩いて5分)



**御嶽神社(元石川)**  
 表御嶽・裏御嶽の2つがあります。  
 昔の人たちの対立で2つに分かれましたが、今も地域の守り神として残っています。

**市ヶ尾横穴古墳**  
 今から1300年前に横穴をあけてお墓を作ったものです。刀などの埋葬品が発見されています。

**地藏堂**  
 11月30日には200年もの伝統がある念仏祭が行われます。

## 2 生活科自然たんけんマップ

### 生活科や総合的な学習の 時間に活用したまちの施設の例

施設名	学年	活動内容
1 ●あざみ野白ゆり幼稚園 大場町596 TEL 973-4650	1	● 半日交流
2 ●もあ四季彩館 あざみ野 1-26-5 TEL 904-4494	2・3	● 店員さんにインタビュー
3 ●ペットフォレスト あざみ野 1-25-3 TEL 905-2101	2	● 店員さんにインタビュー
4 ●愛愛電機 あざみ野 2-12-4 TEL 901-1757	2・3	● インタビュー ● あざみ野のまちの歴史のお話を聞く
5 ●イリーゼあざみ野 あざみ野 4-32-2 TEL 0120-122-943	4	● 合唱の発表 ● 一緒に遊ぶ交流
6 ●脇田整形外科 (デイケアルーム) あざみ野 2-9-11 サンサーラあざみ野 TEL 903-1810	4	● 合唱の発表 ● 一緒に遊ぶ交流
7 ●満願寺 あざみ野 4-27-6 TEL 901-4070	3	● 住職さんからあざみ野の まちの歴史のお話を聞く
8 ●万寿の森 元石川町4323 TEL 905-1200	4	● インタビュー





## あ と が き

あざみ野第一小学校の創立40周年を迎えるにあたり、その記念事業の一つとして、この社会科資料集が完成しました。

あざみ野の町は、この40年、時代の流れと共に大きく変化してきました。また、自然・歴史的遺跡・文化的施設・商業施設など様々な「まち」の様子も感じられます。あざみ野のまちで育つ子どもたちが、まちの歴史を知り、まちを愛する子どもとして育まれるよう本誌を学校教育の様々な場面で活用していきます。

この資料集の作成にあたり、ご多用のところ原稿をお寄せいただきました皆様をはじめ、多くの方々にご協力をいただきましたことを心から感謝し厚くお礼申し上げます。

今後とも、本校の教育活動の充実発展のために、ご支援、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度 校長 山本 佐知子

### 編集後記

私は、資料となる写真の収集や地域の地図の変更になった所を直したりいたしました。分からないことは、色々な方に繋いでいただき、地域の方を訪ねて教えていただきました。無理なお願いにも関わらず、快くお引受けいただき、多くの資料を集めることができました。お世話になりました皆様、本当に有難うございました。

そして、訪問する先々で『あざみ野第一小学校』が愛されていることを実感したお手伝いでもありました。開校以来40年間、あざいちを作り育ててくださった先生方、地域の皆様、保護者の皆さまの努力により、この雰囲気のできたのだと感じる言葉をたくさん伺いました。

これからは、私もその仲間に入れるように努力し、あざいちを支え、見守って行きたいと気持ちを新たに1年間でした。この度は、大変貴重な機会を与えていただき誠に有難うございました。重ねてお礼申し上げます。

吉村 尋樹

吉村さんにお声かけいただき、今回この記念誌の制作に携わることとなりました。当初は何もわからず、資料やwebなどで調べながら進めていきました。地域の神社やお寺の撮影の際には、関係者の方や近所の方に声をかけていただくこともあり、その度にあざみ野第一小学校の歴史を感じました。

また、田園都市線や横浜市営地下鉄の開通とともに、航空写真で見るあざみ野のまちがみるみる変わっていく様子は、まるでタイムマシーンに乗って旅をしているような気分になり、私自身とても楽しかったです。

創立40周年という記念すべき年に、このようなご縁に恵まれたことを大変嬉しく思っております。ご協力いただいた先生方、本当にありがとうございました。あざみ野第一小学校がこれからも素晴らしい歴史を地域の方々と一緒に重ねていくことを心より願っております。

永田 喜子

## 編集委員

【学 校 長】 藤 馬 直 子

【副 校 長】 山 本 佐 知 子

【教 職 員】	里 吉 絢 佳	鈴 木 祥 子	林 智 美	佐 藤 峰 子
	馬 場 真 莉 子	真 中 紀 子	諸 見 賢	池 田 百 花
	高 橋 節 子	南 澤 寛 樹	永 井 美 夏	佐 々 木 茂
	福 下 雄 太 郎	三 宅 早 智 子	山 下 秋 平	林 美 里
	松 島 肇	川 原 祐 司	中 川 由 紀	竹 間 進
	生 田 福 子	鹿 野 み ぎ 子	稻 谷 明 子	富 田 剛 史
	笹 川 明 穂	寺 田 美 佐 子	久 保 見 知 子	峯 愛
	小 柴 友 美	味 水 陽 子	沖 俊 行	榎 真 由 美
	高 井 摂 子	竹 田 正 人	田 中 恵 子	

【編集協力】 吉 村 尋 樹

【構成・編集】 永 田 喜 子

発行日：令和元年 11月30日

発 行：あざみ野第一小学校

横浜市青葉区あざみ野4丁目6-1

(045)902-7152

## 参考文献・資料

- 変わりゆくふるさと写真集（根元藤吉）  
歴史の舞台をあるく（相沢雅雄）  
田園小史（緑区役所北部支所）  
青葉区区政概要（青葉区役所）  
わたしたちの横浜（市教育委員会）  
よこはまの歴史（市教育委員会）  
図説・横浜の歴史（横浜市）  
横浜グラフィコハマ（横浜市）  
横浜もののはじめ考（横浜開港資料館）  
F・ベアト幕末日本写真集（横浜開港資料館）  
資料が語る横浜の百年（横浜開港資料館）  
横浜のあゆみ（横浜開港資料館）  
学校生活の移り変わり（学研）  
緑政局ホームページ（横浜市）  
牛込の獅子舞（牛込獅子保存会）  
くらしの移り変わり（学研）  
庶民のくらしと道具（学研）  
交通・通信の歴史（ポプラ社）  
化学王（福武書店）  
1億人の昭和史（毎日新聞社）
- 保木大太鼓100周年記念誌  
みどり新聞（みどり新聞社）  
多摩田園都市（東京急行電鉄）  
山内小学校百年の歩み誌（山内小学校）  
わたしたちのやまうち（山内小学校）  
元石川小記念誌（元石川小学校）  
あざみ野第二小記念誌（あざみ野第二小学校）  
わたしたちのまち嶮山（嶮山小学校）  
山内のあゆみ—石川編—（横溝潔著）  
あざみ野のうつりかわり（あざみ野第一小学校）  
創立十周年記念誌「あざみ」  
（あざみ野第一小学校）  
創立二十五周年記念誌「あざみ」  
（あざみ野第一小学校）  
変わりゆく古里写真集—あざみ野  
たまプラーザ荏田の二十五年（根本藤吉）  
山内の丘に撮う<sup>う</sup>（吉村俊介）  
写真集あざみ野  
～あの時の昭和・平成～（飯島一世）

## 参考H.P.

- 「あざみ野の歴史」([http://azamino-history.jp/history/current\\_history.html](http://azamino-history.jp/history/current_history.html))  
「あざみ野駅 - Wikipedeia」(<http://ja.m.wikipedeia.org>)  
「Yahoo! ロコ」(<https://loco.yahoo.co.jp>)  
「横浜市H.P.」([www.city.yokohama.lg.jp/aoba/kouen](http://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/kouen))  
「なるほどあおば2017データで見る青葉区」(<http://www.aoba/50kusei/hakusho.html>)  
「横浜市営地下鉄ブルーライン—Wikipedia」(<https://ja.wikipedia.org>)  
「東急田園都市線—Wikipedia」(<https://ja.wikipedia.org>)

## 取材協力・資料提供

- |                 |          |          |
|-----------------|----------|----------|
| 松本農園（松本さん）      | 東急電鉄     | ペットフォレスト |
| 浜なしあざみ野園（吉村さん）  | セブン・イレブン | カボス      |
| あざみ野商店会会長（黒沼さん） | 靴流通センター  | 国土地理院    |
| 満願寺（住職鳴海さん）     | 愛愛電機     | 工藤建設     |